



令和2年度

岐阜大学医学部看護学科活動報告

社会貢献部会



GIFU UNIVERSITY

ご挨拶

岐阜大学医学部看護学科では、平成 28 年度に『社会貢献部会』を発足させ、今年度で 5 年の節目を迎えました。『社会貢献部会』の活動としては、岐阜大学の特徴を生かした地域の活性化、岐阜県を中心とする地域への看護職の定着、看護の質の向上に向けて、教員有志を中心とした「看護職輝き輝き(イキイキ)プロジェクト」を立ち上げ、「高大連携プログラム」「卒業生支援プログラム」「専門職を磨く教育プログラム」「看護研究支援プログラム」「地域住民健康教育プログラム」の 5 つのプログラムを展開してきました。

活動の展開においては、岐阜県の「看護学生等県内定着促進事業補助金」をはじめ、岐阜県看護協会の「看護研究助成金」、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の「学生による地域課題解決提案事業助成」等を賜りながら内容の拡充を図って参りました。具体的な活動として、入学前の高校生には看護職への関心を高め(種まき)、入学後は学生の看護のキャリア形成(根を張る)を促し、就職後は看護職としてのキャリアアップと看護の質の向上(茎や葉の育成)を図ることをイメージしながら、看護学生が卒業後県内に定着することを目標に実施してきました。さらに、看護の対象となる地域住民の方々との交流や協働も含めて、5 つのプログラムが 5 年間活動を継続して参りました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、各プログラムの活動を縮小・中止せざるを得ない状況でした。その中で、各プログラムが 5 年間の活動の戦略的な部分から、社会的に及ぼした成果までを振り返り、次年度以降の活動に向けた課題を見出す機会とすることができました。

ここに令和 2 年度の活動、及び平成 28 年度から令和 2 年度までの成果を本報告書としてまとめましたのでご一読いただき、さらなるご指導・ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

看護学科学科長 足立 久子

将来計画委員長 竹下美恵子

<社会貢献部会メンバー>

社会貢献部会長 : 小林和成

卒業生支援プログラム : 小島愛子(副部会長)、中島美奈子、伊藤真希

専門職を磨くプログラム : 柿田さおり(副部会長:前期)、水野郁子(副部会長:後期)
竹下美恵子、高橋由起子、魚住郁子、

看護研究支援プログラム : 社本生衣(副部会長)、竹下美恵子、小木曾加奈子、
小林和成、西田友子、牧茂義

高大連携プログラム : 金子洋美(副部会長)、井關敦子、大平幸子、田中千絵

地域住民健康教育プログラム : 田中健太郎(副部会長)、阿部誠人(副部会長)、
瀬瀬朋弥、小林和成、村田成美

目次

ご挨拶

I. 令和2年度の活動報告	
1. 高大連携プログラム	1
1) 令和2年度 活動報告	
2) 進路研究講座（出前授業）	
(1) 岐山高校 (2) 加納高校 (3) 岐阜北高校	
3) 地域課題探求型学習推進事業 大垣南高校	
4) 岐山高校 探求活動	
(1) 活動計画 (2) アンケート結果 (3) 探求活動の様子 (4) 活動報告書	
(5) 生徒自己評価集計結果 (6) 発表会の様子	
5) 岐山高校 基礎看護学授業への参加	
(1) 参加計画及び実施状況 (2) アンケート結果 (3) 授業見学の様子	
2. 卒業生支援プログラム	36
1) 令和2年 活動報告	
2) 卒業生相談窓口開設のお知らせ	
3. 専門職を磨く教育プログラム	39
1) 令和2年度 活動報告	
2) 「看護管理者が捉える看護実践能力向上の取組み」（ポスター発表抄録）	
(1) 第1報 看護実践能力に対する強み	
(2) 第2報 看護実践能力に対する課題	
(3) 第3報 看護実践能力に対する課題の解決方法	
3) LGBT と性別違和研修会	
4. 看護研究支援プログラム	45
1) 令和2年度 活動報告	
5. 地域住民健康教育プログラム	47
1) 令和2年度 活動報告	
2) 地域住民との打ち合わせ会議	
II. 5年間の活動評価	51
1. 卒業生支援プログラム	
2. 専門職を磨くプログラム	
3. 看護研究支援プログラム	
4. 高大連携プログラム	
5. 地域住民健康教育プログラム	
6. 総合評価	

1. 高大連携プログラム

岐阜北高等学校出前授業 アンケート結果

講師：魚住郁子先生

テーマ：生きている兆候を探そう！

実施日：令和2年10月2日（金）14：00～14：50、15：00～15：50

参加者：37名

アンケート回収枚数：37枚

1. 今回の授業感想

- ・とても興味深い話を聞いて楽しかったです。自分の将来の選択肢を増やせました。
- ・説明だけではなく、実際に測定などができて分かりやすかったし、おもしろかった。周りの人の意見が共有できて自分の視野が広がった。
- ・一つ一つ丁寧に教えて下さったので、とても分かりやすかったです。もっと医療について調べてみようと思いました。
- ・看護師という職業は、患者さんに深く関わる機会が多いですが、今後は、「患者さんができるようにサポートする。」ということをお大切にすることが分かりました。
- ・初めは「生きているとは」ということを学んだ時、当たり前のことができるということが生きることなんだと感じました。少子化が進んでいる中で、看護師はとても重要な立場であって、人の生涯に関わることができるのは貴重なことだなと感じました。
- ・看護学科では「なぜ」を追求することは少ないのかなと思っていました。でも、今回の講座を聞いて、むしろ、「なぜ」が大切だと知り、思っていた以上に学ぶのが楽しそうな学科だと分かりました。
- ・脈はいつも一定だと思っていたけど、リズムが違う時があって面白いと思いました。
- ・大学の内容だけでなく脈拍の測り方など、実習的な内容もあって楽しかったです。
- ・たくさんのなぜを知ることができておもしろかったです。大学についてもいろいろ聞くことができ、わかりやすく良かったです。
- ・看護学科についてよくわかった。また、脈を測るのは難しかった。
- ・自分は岐阜大学の看護学科を目指しているので、詳しく情報が知れて良かったです。
- ・脈拍の測り方などの身近なことから、看護師において大切なことは何かなど、幅広いことが知れてとても勉強になりました。
- ・自分が今まで興味をもっていたけど、知らなかったことで脈の測り方などを知ることができたので大変楽しかったです。
- ・脈拍の測り方がずっと間違っていた方法を覚えていたので驚きました。看護学部が意外と大変そうだなと思いました。
- ・今回の授業では、実際に脈をとったりするなど実践があって分かりやすかった。
- ・当たり前のことすぎて考えたこともなかったけど、言われてみれば気付かされることがありました。
- ・看護師になるために、大学で何を学んで何ができるのかを知ることができました。今後の参考にしたいです。

- ・今まで脈のとり方を間違っていたことを知って衝撃を受けました。また、脈のリズムがいかに大切か分かったので、家族の脈のリズムが正常かどうか確かめたいです。
- ・実践があったり周りの人との交流があったりして、人との違いを実感できておもしろかったです。
- ・すごく楽しかったです。なぜ1分間も測ったりするのかよく理解できました。岐阜大学の看護学科について知ることができてうれしかったです。
- ・授業の内容など、いままで全然知らなかったことが具体的に教えてもらってとても良い経験になりました。
- ・正しい脈拍の測り方を知れたので良かったです。今まで知らなかったことや脈を測る時にも、患者さんに対して気遣いが大切なんだと知れて良かったです！
- ・普段の保険の授業では知ることができないことも知ることができてとても楽しかった。
- ・自分たちが体感しながら学部のことについて知れました。自分の一番行きたい学部なので、より興味が深まりました。
- ・脈を測るときに、3本の指を使って測ることは知らなかったけど、正しい測り方を知ることができました。私は看護学科に行きたいなと思っているので、詳しく知ることができてよかったです。今日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。
- ・看護師の脈拍の測り方は患者さんのことを考えたことが多くて、思ったより難しかったです。たくさん看護師について知れて良かったです。
- ・脈を測るってということだけでもいくつも気を付けることや分かることがあってすごいなと思いました。
- ・とにかく楽しかったです。「なぜ？」を考えるといいと知ったので常に考えようと思います。また、自分で脈を測ろうと思います！
- ・生命徴候を探したり、脈拍測定を実際に体験することで、看護学により興味をもちました。また、岐阜大学についての説明もして下さり、とても参考になりました。
- ・看護科ではいろいろなことをしていて、4年生になると実習がとても多くなりとても忙しくて大変だと思いました。でも、とても興味深くて更に看護に対する関心が深まりました。
- ・脈の正しい測り方を学べて嬉しかった。岐阜大学の看護科について知れて良かった。
- ・看護についていろいろなことを聞けてとても楽しい講座でした。ますます看護師になるために頑張ろうと思えました。ありがとうございました。
- ・生きている兆候についてどんなのがあるのかが分かってよかったです。また、岐阜大学についてどんなことをしているのかが分かりました。実習がこんなにあることに驚きました。
- ・「なぜ」を考えることが大切だと分かりました。看護への興味が増しました。ありがとうございました。
- ・脈拍の測定の仕方を学べたことで、これからの生活において誰かの役に立てることが増えたのでいいかしたいです。
- ・今まで少し気になるなあ程度だったけど、話を聞いて今までより興味がわきました。もっといろいろ自分で調べて、体験などもあれば行ってみたいと思いました。
- ・知らないことばかりでとてもためになりました。看護への興味がより出てきました。

2. 岐阜大学看護学科で高校生向けにやってほしいことがあれば、お書きください。

- ・体験入学してみたいです。
- ・助産師や保健師についてもっと詳しく知りたい。
- ・実際の授業や実習の様子を見たいです。
- ・大学の生活ややりがいなどを教えてもらえる機会がほしい。
- ・今は難しいけど、実践的な活動をしたいと思いました。
- ・臨床などの内容も紹介してほしいです。
- ・オープンキャンパスのときとかに、体験できることがあればいいなと思います。
- ・実際に働いているところを見たい。
- ・注射の実演
- ・看護体験の機会を増やして、募集人数も増やしてほしいです。
- ・看護体験
- ・学校の中を見学できたり、授業の様子を見学したい。
- ・ベッドメイキングなどの体験をしてみたい。
- ・看護師が実際どんなことをするのかもっと知る機会がほしい。
- ・看護学科の授業をその場で見たい。
- ・看護師が行うこと（血圧測定、注射）を体験する。
- ・おすすめのサークルやバイト、実習期間の過ごし方など先輩方が高校生の時に不安だったことを回答してほしいです。
- ・一日入学
- ・一日看護師体験をやってほしい。
- ・高校生も実習生、または看護師と一緒に仕事をするという一日体験などがあればぜひ行きたいです。

3. 質問など、なんでもお書きください。

- ・養護教諭になりたくて岐阜大学を目指していたんですが、課題がなくなってしまったと聞きました。岐阜大学で養護教諭を目指すのはできないのですか。
- ・看護師はよく長時間労働と言われますが、それはストレスに繋がったりはしませんか。
- ・薬理学の授業では、どんなことを学ぶのか気になりました。
- ・男の看護師も増えていると聞きましたが、どのくらい増えているのですか。
- ・仮眠室は眠りにくいのですか。
- ・看護師のやりがいは何だと思えますか。
- ・とてもおもしろくて勉強になる講座でした。ありがとうございました。
- ・男性の看護師は女性に対してどれくらいの比率ですか。
- ・医師に専門分野があるように、看護師にも専門分野がありますか。
- ・本日は貴重なお話をありがとうございました。
- ・夜間の見まわりをしててこわい思いをしたことがありますか？
- ・助産師はどんな勉強をしているのですか。
- ・看護師を目指すにおいて、身に付けるとよい能力は何ですか。
- ・看護師として働く中で一番大変なことは何ですか。

岐山高等学校出前授業 アンケート結果

講師：小林和成先生

テーマ：「健康について考えよう」－家族、友人・クラスメイト、地域の人々との関係－

実施日時：令和2年10月16日（金）13：10～14：40

参加者：24名

アンケート回収枚数：24枚

1. 今回の授業感想

- ・健康は、生活のすべてに関わっていることにびっくりしました。なので、人との関わり方なども、もっと積極的にしていきたいと思いました。
- ・今まで看護師の方は病院にいるだけのイメージでしたが、自ら患者様のもとへ足を運び健康を守る地域看護の仕事はこれからの社会にも必要な仕事だと思ったし、はじめて聞いた仕事でしたが興味をわいてきました。私の心にもささるような貴重なお話が聞けてたいへん嬉しかったです。私にとっても一歩将来の夢が広がりました。ありがとうございました。
- ・改めて地域活動に参加することが大切だと分かりました。私が住んでいる地域には、高齢の方が多いので、自分から話しかけたり、挨拶をしたりして関係をより密にし、お互いの健康についてみんなで考えていきたいなと思いました。今日はありがとうございました。
- ・私は健康の反対は病気だと思っていたし、自分が気を付ければ健康になると考えていました。今日のお話を聞いて自分の行動で友達を元気にしたりすることが可能だと分かり、多くの人の楽しい生活を少しでも守ってみたいと思いました。
- ・私は保健師になりたいので、保健師について知れて良かった。私が思っていたよりも、保健師の仕事が地域との距離が近く、あらためていい仕事だなと思うことができた。
- ・今まで保健師はつまらないと思って看護師か助産師になろうと思っていたけど、「本当に困っている人は病院に来ない。こちらからいかないよ。」という言葉が心に刺さったので保健師も視野に入れたいなと思いました。「こんな人もいていいよね。地域の一員だよ。」という言葉に少しうるっとくるくらいでした。私もそんな考えをしていきたいです。
- ・健康という概念が変わりました。
- ・地域というのを大切にすると学び、これから挨拶とかを始めてみんなで健康になっていきたいです。
- ・私はまだ自分の将来の夢がはっきりと決まっていなかったのですが、看護の道に行きたいなとふわふわした感じで考えていました。でも、今日のお話を聞いて、私は看護の道に進むと決意しました。私は小林先生のお話を聞いて決断することができました。本当にありがとうございました。また、会える日を楽しみにしています。
- ・憧れの仕事についてくわしく知れて良かったです。私は保健師を目指しています。きっかけは、父のうつ病です。最近保健師の方が家庭訪問に来て、父と話をしてくれていて、今では社会復帰のためにがんばって少しずつ働き始めました。私に小さいときから寝たきりの父を見てきたの

で、保健師の方にとっても感謝しているし、父の面倒をみている祖母の心の支えにもなっているの
で、私の本当にあこがれの仕事です。ありがとうございました。

- ・保健師という仕事がどのようなことをして地域の方々を支えているかが詳しくわかりやすかったです。また、グラフもあり、他の国々と比較してくださることで、とても頭に入りやすかったです。
- ・先生のお話はとても分かりやすく、健康についてたくさんを知ることができました。改めて「看護師になりたい。」と強く思いました。これからも健康について知っていきたいです。
- ・保健師という仕事をよく知らなかったが、一つ一つの仕事をみて、人と良く関わっていること分かりました。またより身近に感じられた。看護師さんだけでなく保健師にも視野が広がられた。
- ・今回の授業を通して、健康とは私たちの身近な生活の中で社会とのつながりによって健康観が強くなることが分かった。また、減塩をしないとその分がんになることが分かった。また、家族と
かに伝え家族全員が長く健康に過ごせるようになりたい。
- ・私は、入院していた時があってその時に会った看護師さんに勇気と元気をもらったので、自分も
看護の道に強く進もうと思っていました。今回の授業で看護師だけでなく、保健師・助産師など
があることも改めて分かりました。地域社会に貢献できる保健師の仕事はとてまかっこよいな
と思えました。
- ・今まで健康についてこんなに詳しく考えたことはなかったけど、お話を聞いて、健康について興
味をもちました。
- ・看護師という職は医師のサポートや患者の身のまわりの世話というイメージが強かったけれど、
自分の祖父がALSにより岐阜大に入院していた時に、とても親身になっていただけたのを経験
し、この道に進みたいと思いました。さらに、今日の講話で保健師という職について初めて学
び、地域と関わりながら患者さんの大切な日常を守ることに興味をもちました。
- ・看護師は病院で働く者だと思っていたけど地域で働く人たちもいることが分かりました。「未
病」というものがあることもわかったし、地域の関わりが大切ということが分かりました。
- ・私は助産師になりたいと思っていたのですが、小林先生のお話を聞いて地域看護にも興味がわい
てきました。大学も看護系に進みたいと思っているので今、自分にできることをしていきたいと
思います。
- ・「健康について」は、詳しく考えたことがありませんでした。健康にいたためには、病気になら
ないだけではなく、人とコミュニケーションをとることが大切ということが分かりました。
- ・健康に対する考え方など、今まで思っていたことに加えて、地域との関わりが大切なのだとい
うことが知れました。私は、保健師についてあまり知らなかったのですが、本当に助けを必要とす
る人を助けることができるとてもすごい職業だと思えました。
- ・保健師さんの仕事の内容がとても良くわかりました。今から健康に気を付けようと思います。塩
分の量なんて考えたことがなかったので・・・
- ・看護学といっても看護師、保健師、助産師など幅広い職業があることが分かりました。看護とい
ったら病院で働くというイメージがかなり強かったのですが、実際に、自宅を訪問して人の役に
立ったりとまだ知らないことがたくさんありました。これからいろいろなことを調べて、将来ど
うなりたいか少しでも決めたらいいなと思います。

- ・「健康」について本当に大事なものは「人との関わり」であることを知り、なるほどと思いました。「人との関わり」ができない人、心身に問題がある人のために、保健師という重要なケアワーカーさんが必要であることを学び、「健康」であるためには、今まで自分の思っていた以上に難しく、「健康」であることの重大さを知ることができました。
- ・地域看護について、今まで詳しく知らなかったのですが、今日の講義で詳しく知ることができました。アンケートの結果や研究結果を教えていただいた場所で人のつながり、地域力の大切さをとても実感できました。

2. 岐阜大学看護学科で高校生向けにやってほしいことがあれば、お書きください。

- ・最近、保健の授業で胸骨圧迫のやり方を学びました。私たちの周りで、いつ・だれが倒れてもおかしくないし、私たちにとって必要なものだと思っています。よりくわしくやってみたいと思います、実習のような形でやっていただきたいと思いました。
- ・保健師の方が普段、地域の方々のお家に行き、どんなことをしているのか詳しく知りたいです。
- ・実際に、大学生の方から話を聞いてみたいです。
- ・もうやっているかもしれないのですが、赤ちゃんの人形を使って実際にする体験もしたいです。あと、助産師の人がやることなのかなと思っています。少し小さく生まれてしまった赤ちゃんのお世話の仕方も体験してみたいです。
- ・先輩方の話を聞いてみたいです。
- ・大学の看護の授業を実際に受けてみたい。
- ・実際の授業がみてみたいです。
- ・大学生さんの授業風景を見てみたい。
- ・ちょっとした看護を体験できる講座を開いてほしい。
- ・実際に体験してみたい。
- ・看護師のレポートや、学生さんが体験している所を見てみたい。
- ・大学生視点からの実習を通して思ったことも、講演をまた聞きに行きたい。
- ・大学で行う講義などを体験してみたいです。
- ・先輩方の話を実際にきいてみたいです。（良かったこと・大変だったこと）
- ・大学に入ったときの実習がどのようなことをしているかについて知りたいと思いました。
- ・見学会
- ・チーム医療の現場を知りたいです。
- ・看護師や助産師の人たちの仕事内容を大まかにしか知らないから、今回みたいに細かくわかりやすく知れて本当に良かったし、他の内容も知れる機会があったら良いと思いました。あとは、やっぱり大学の中を見に行ってみたいです。
- ・看護師さん・保健師さん（大学の先輩でも）のお話を聞きたい。（一人一人の健康の価値観が知りたいので）

3. 質問など、なんでもお書きください。

- ・保健師として働いている中で、どんなことにやりがいを感じるのかが知りたいです。
- ・大量の血や注射がこわくても看護師や助産師（中絶手術が苦手な諦める人がいるとも聞いたので）。保健師はできるのでしょうか。また、慣れるものなのでしょうか。
- ・看護師は文系でもなれると聞きましたが。理系と文系で大学に在籍からの勉強に何か差はありますか。（理系の方が有利とかあるのでしょうか）
- ・本日は本当にありがとうございました。
- ・保健師になるために、大学について調べたり、仕事内容を調べていたところなので、とてもためになりました。勉強を今は努力します。私自身、自分に自信がなかったり友人関係で良く悩むので、「健康」をキープできるように上手にストレス発散したいです。
- ・今日はありがとうございました。
- ・よく人と関わって人を助けたいと思いました。先生のお話を聞いて。何かどこか自分の視野が広がった気がします。看護学生になると、人間関係が大変だと聞くのですが、耐えられるでしょうか。
- ・減塩することを目指したいが、どのくらい塩分を摂取することがピークなのか。
- ・私たち高校生にとって一番意識してほしい健康のための行動は何か。
- ・看護師は多くの人と関わる仕事だから自分の心が強くないといけないと聞くけれど、そうでない人は難しいのかと考えました。
- ・減塩についてこだわろうと思えました。ありがとうございました。
- ・保健師という仕事があることを知らなかったのもっと知りたいと思いました。
- ・もし岐阜大学の看護科に入ったとして、助産師の資格をとるために必要なこと、例えばクラスで何番目とか試験を受けるための条件って何ですか。
- ・どんな人が看護師に向いているのか。

加納高等学校出前授業 アンケート結果

講師：竹下美恵子先生

テーマ：看護における人間関係とコミュニケーション

実施日：令和2年10月29日（木）15：20～16：10

参加者：23名

アンケート回収枚数：23枚

1. 今回の授業感想

- ・授業ありがとうございました。私は今回の授業を聞いて、看護に必要なことが何なのか知ることができてよかったですと思います。コミュニケーションに気をつけて日々の生活を送りたいと思います。
- ・患者さんとどのように接しているかがわかりとても勉強になりました。コミュニケーションの方法はとても多く存在していることが分かりました。
- ・看護師として何が大切なのかたくさんを知れて良かった。コミュニケーションがいかに大切であるかの理由が分かった。聞き上手になりたいです。
- ・患者さんとどう関わっていけばいいか学べた。
- ・看護師は患者さんと良い関係を築くことが大切なので、その為に必要なコミュニケーションスキルや気をつけるべきことがあることが分かった。医療面の技術と同じくらいコミュニケーションが大切だと思った。
- ・看護におけるコミュニケーションが普段とは異なり、特別であることが分かりました。言葉を聞くだけでは分からないところも分かりやすい例やジェスチャーがあって理解が深まりました。
- ・第一印象が大事ということだったので、笑顔であいさつすることを心がけて過ごしたいと思います。出前講座をしていただきありがとうございます。
- ・看護におけるコミュニケーションの重要性が分かりました。バーバル・コミュニケーションよりノンバーバル・コミュニケーションの方が相手に伝わる割合が大きいことが初耳でした。
- ・看護について難しいことではなく僕たちにも分かりやすく、また、生活に活かせるようなことを教えてくださいました。
- ・普段、このような話を聞く機会はないので、とても貴重な時間でした。看護においては会話だけでなく、さまざまなコミュニケーションがとても大切だということが伝わりました。普段からも意識できることを実践していきたいです。
- ・今回の授業で相手とコミュニケーションをする際には、いくつものことを意識しなければならないということが良く分かりました。私は将来看護師として働きたいという思いがあるので、第一印象の身だしなみや挨拶、傾聴といった点を普段から習慣づけておこうと思います。
- ・自分たちで調べるだけでは分からないようなお話を聞かせていただけて、とても良い体験になりました。看護においてコミュニケーションはとても大切なのだと分かりました。普段からコミュニケーション能力を高められるように意識して生活していこうと思います。
- ・テーマの通り、看護におけるコミュニケーションについてよく分かったし、コミュニケーション手段が自分が思っていたよりも多かったのを知ることができて良かったです。

- ・コミュニケーションがこんなに深く大事なことを改めて知ることができました。これからの人生で大事なことを教えていただきありがとうございました。
- ・日常背もコミュニケーションはたくさん使うけれど「なるほど」と思うことがたくさんありました。人との関りを大切にして相手を思いやりたいです。
- ・看護の分野で大切なことが分かりました。第一印象で悪いイメージをもたれないようにしたいです。
- ・看護において大切なことを学ぶことができ、知らなかったこともあったのでとても良いお話がきけました。コミュニケーションはとても大切なことがよく分かりました。
- ・とても分かりやすく、聞きやすい速さだったのでよく理解でき、看護についてコミュニケーションの大切さが分かりました。ありがとうございました。
- ・看護について詳しく知ることができて良かったです。より興味を持つことができました。
- ・相手を理解するために、自分を理解することも大事なんだと知れた。今はずっとマスクで顔の表情で伝えられることも減っているから、相手に正しく伝わるようにより丁寧なコミュニケーションを心がけたいと思った。
- ・看護において、コミュニケーションが大切だということがわかり、また、第一印象が相手にとって良いものとなるように、普段からあいさつや笑顔などを心がけていきたいと思いました。
- ・“患者さん”ではなく、“一人の人間”としてその方を尊重し、信頼関係をコミュニケーションを通して作っていく事が大切であることが分かった。
- ・「コミュニケーション」というと、話をすることばかり頭に浮かんでいたけれど、ジェスチャーや目線、表情、触れることもコミュニケーションの一つだということを知ることができてとても面白かったです。
- ・看護におけるコミュニケーションについて学ぶことができました。今の生活の中でもコミュニケーション技術を高められるように少しずつ努力したいです。
- ・看護の本当の意味を知って、納得した。患者さんを見て、守る、、、大切に思う気持ちが大切だということを改めて感じた。

2. 岐阜大学看護学科で高校生向けにやってほしいことがあれば、お書きください。

- ・授業の見学（2）
- ・先輩の声をもっと知りたいです。（特に高校生のうちからやっておくべきこと）
- ・職場見学
- ・演習などの体験
- ・コロナ禍で今はできないかもしれませんが、看護体験があればうれしいです。
- ・体験
- ・看護体験（助産師）
- ・他にも話を聞きたいです。
- ・実際に行う看護師の仕事を説明してもらいたいです。
- ・実際に大学でやるような実習、授業が体験できる機会が欲しい。

3. 質問など、なんでもお書きください。

- ・講義していただきありがとうございました。
- ・在宅ホスピスや小児科の患者さんのコミュニケーションのポイント
- ・今日はありがとうございました。
- ・コミュニケーション能力をこれから高めて、相手を理解しようと思える人になりたいです。
- ・ありがとうございました。
- ・お医者さんの指示に納得できないとき、どのような対応をとるのか。
- ・実習はどんな事をするか。

令和2年度 出前講義実施報告（岐阜県立大垣南高等学校）

企画名称：地域課題探求型学習推進事業 1・2年生課題探求型学習

目的：興味関心のあるテーマについて地域の現状とその取り組みから、課題を設定し課題解決に向けた提案を行う。

1. 1年生

1) 第1回目

日時：令和2年11月26日（木）14時15分～15時5分

対象：1年生 30名

担当：地域看護学分野 西田友子

内容：講義 テーマ「地域医療」

- ・地域医療・保健の健康課題
- ・課題探求について
- ・問いを立てよう
- ・探求の方法

2) 第2回目

日時：令和2年12月17日（木）15時15分～16時5分

対象：1年生 30名

担当：地域看護学分野 瀬瀬朋弥，西田友子

内容：第1回目の講義内容を参考にグループで関心のあるテーマを設定し課題を探求する。テーマのキーワードとして、看護師不足、地域医療、介護士の離職、医療格差があげられていた。グループワークの様子を見学し、テーマ設定、課題を遂行するための調査方法等に関する助言を適宜行った。

2. 2年生

1) 第1回目：

日時：令和2年10月12日（月）15時15分～16時5分

対象：1年生 31名

担当：地域看護学分野 瀬瀬朋弥

内容：講義 テーマ「地域における保健・医療・福祉に関する現状と課題」

- ・地域包括ケアシステム
- ・地域の健康問題と課題
- ・地域医療の現状と課題・改善策

2) 第2回目

日時：令和2年11月9日（月）15時15分～16時5分

対象：1年生 31名

担当：地域看護学分野 瀬瀬朋弥，田中健太郎

内容：第1回目の講義内容を参考に各自で関心のあるテーマを設定し課題を探求する。テーマのキーワードとして、在日外国人の医療問題、看護師不足、訪問看護、地域看護、へき地医療、地域医療、周産期医療、生活習慣病と食生活、自然災害に備えた看護師（保健師）活動、感染症対策、自殺があげられていた。個人ワークの様子を見学し、テーマ設定、課題を遂行するための情報収集方法等に関する助言を適宜行った。

※第3回目以降、1・2年生共にまとめ、発表会に向け助言指導を行う予定であったが、令和3年1月14日に緊急事態宣言の発令を受け出前講義は中止となった。

探究活動 活動計画

担当

班	班長 _____ 組 _____ 番 : _____	_____ 組 _____ 番 : _____
	_____ 組 _____ 番 : _____	_____ 組 _____ 番 : _____

テーマ

メインエスチョン (テーマに含まれる「なぜ」は? 何を明らかにしたいのか?)

なぜ

か を明らかにする

仮説 (メインエスチョンに対して仮説を立てる)

-
-
-
-
-

検証① 調べればわかること

検証② 探究すること、探究の方法

探究活動計画

7月	11月
8月	12月
9月	1月
10月	要旨集作成、ポスター完成 2月15日(月) 発表会

夏休み前に完成しよう!

探究活動の流れ

課題設定 → 仮説 → 検証 → 考察 → まとめ → 新たな課題や仮説 → …

これを1セットとして何度も繰り返していくことで より深い探究になります。

ポイント

- ・常にメインクエスチョンを意識し、目的が『疑問の解明』であることを忘れない
- ・検証過程に説得力を持たせるため、客観的な数字・事実などを提示する
- ・～ということが分かった だけでなく ～と考えた という思考を繰り返すことが大切

今後の予定

	時数	累積	学校行事等	全体の流れ	項目	活動内容(案)	
6月18日	木	1	1	学問探究(後半)	「探究活動」ガイダンス・探究の時間ガイダンス		
6月22日	月	1	2		探究活動①発表会振り返り+テーマ考案	クラス内交流	
6月29日	月	1	3		オープンキャンパスへ行こう①	計画	
7月6日	月	1	4		探究活動②テーマ研究(予備調査)	班編成・班内で個人のテーマが	
7月13日	月	1	5		探究活動③テーマ候補の決定(本調査)	複数候補を順位づける	
7月20日	月					2/15探究発表会へ	
7月27日	月	1	6		探究活動④活動計画(研究室)	テーマ設定/計画書作成	
8月24日	月	1	7		課題テスト	オープンキャンパスへ行こう②	レポート作成
8月31日	月	1	8			オープンキャンパスへ行こう③	報告会 クラス発表
9月7日	月	1	9			小論文 p.2~13	
9月14日	月	1	10			小論文 p.14~16	
9月28日	月	1	11		自己探究(前半)	修学旅行(10/13~10/16)事前学習①	レポート作成
10月5日	月	1	12	修学旅行事前学習②		報告会	
10月19日	月					→2月15日発表会へ	
10月26日	月	1	13	教育相談		探究活動⑤	調査・研究
11月9日	月	1	14			探究活動⑥	調査・研究
11月16日	月	1	15			探究活動⑦	調査・研究
12月7日	月	1	16			探究活動⑧	調査・研究
12月14日	月	1	17			探究活動⑨	調査・研究
12月21日	月	1	18	保護者懇談		探究活動⑩	調査・研究
12月28日	月	1	19	終業式		探究活動	調査・研究・要旨作成
1月4日	月	1	20	始業式		探究活動	要旨入力・ポスター下書き
1月6日	水	1	21			探究活動⑪	要旨入力・ポスター下書き
1月18日	月	1	22			探究活動⑫	ポスター下書き完成・清書
1月25日	月	1	23			探究活動⑬	ポスター清書完成・発表練習
2月1日	月	1	24			探究活動⑭ 研究室内発表会	研究室内発表会
2月8日	月	1	25			探究活動⑮	発表改善
2月15日	月	3	28		探究活動⑯ 発表準備+発表会	準備1h+全体発表2h	
2月22日	月	1	29		探究能力調査		
3月26日	金	2	31	先輩と語る会	先輩と語る会	(1・2年全クラス対象)	

皆さん、本日はお疲れさまでした。実りある活動になりましたでしょうか。看護学科は、この取り組みの効果を把握するために、無記名アンケートを実施したいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。

記入が終わりましたら、部屋のドア付近に設置した回収箱に入れてください。

I. 今日の目的は下記のどれでしょうか。目的の大きなものから順に上位3つを、1・2・3とつけてください。

- () 方向性を決めること
- () 疑問を解消すること
- () 文献を紹介してもらうこと
- () 大学の教員から話を聞くこと
- () その他：具体的に書いてください：

[]

II. 今日の目的は達成できましたか。 1つに○をつけてください。

- () できた
- () まあまあできた
- () あまりできなかった
- () できなかった

III. 最も印象に残ったこと、良かったことがありましたか。

あったとしたらどのようなことですか。自由にお書きください。

[]

IV. もっと、こうしてほしかったことなど、ご要望があれば書いてください。

[]

V. その他、自由に感想など書いてください。

[]

ご協力ありがとうございました。

2020年度 高大連携 岐山高校探究活動 アンケート集計結果 (11月20日実施)

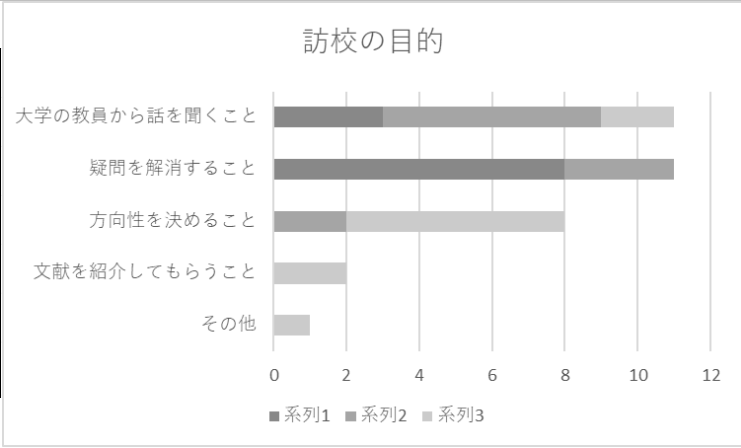
参加者人数：11名 アンケート回収数：11部 回収率：100% 対応教員：井關・大平・田中・金子

- タイトル ①認知症の人とどのように共存していくべきか (参加者3名)
 ②ヘルプマークができた理由 (参加者4名)
 ③日本と世界の国々のLGBTの捉え方には違いはあるのか (参加者4名)
 ④チョコレート効果と健康 (参加者なし) **計 11名**

I. 今日の目的は以下のどれでしょうか 目的の大きなものから1.2.3の順につけてください

n=11

	順位		
	1	2	3
その他	0	0	1
文献を紹介してもらうこと	0	0	2
方向性を決めること	2	2	6
疑問を解消すること	3	3	0
大学の教員から話を聞くこと	6	6	2

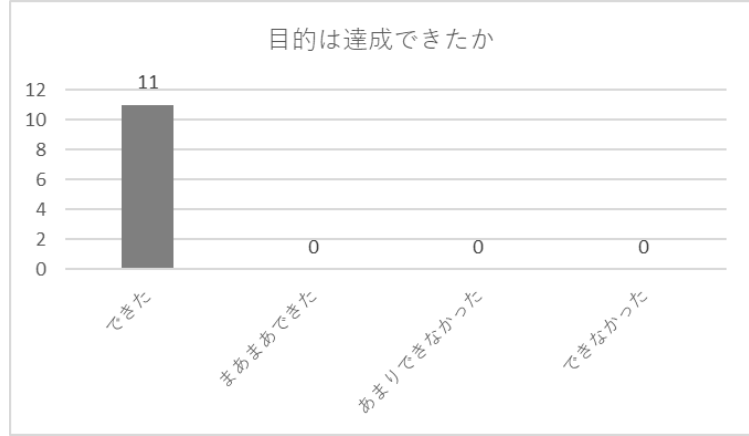


その他

- ・大学の印象を知りたかったこと
- ・大学の印象を知りたかったこと大学でしか聞けない話や経験を詳しく聞きたかった

II. 今日の目的は達成できましたか

- できた (11)
 まあまあできた (0)
 あまりできなかった (0)
 できなかった (0)



III. 最も印象に残ったこと、良かったことがありましたか あったとしたらどのようなことですか

- ・ヘルプマークで目を向けるところは、悪用をどう防ぐかではなく、ヘルプマークを持っている方にどう対応するかが大切だという言葉が心に響いた
- ・悪用などマイナスなことを考えるより自分が何をできるか考えるということがいいなと分かった
- ・実際に聞いたことを話していただけて現実感が持てた
- ・岐阜大学としての取り組みについて聞くことができて良かった
- ・当事者の話を詳しく聞くことができたこと
- ・認知症が身近なものであること「この人は大丈夫だ」とおもっていたらご飯を食べるうちに亡くなってしまった人の話
- ・認知症はその人自身をいかに深く見ることが大切で、体系的なアセスメントを行うことが必要ということ、看護にとって自分の能力をどうしたら上手に伝えられるかを考えることをアセスメントすること

- ・インターネットで調べてもわからないヘルプマークの知名度や先生の見解を実際に聞くことができヘルプマークについての理解を深めることができた
- ・ヘルプマークの認知度を上げるためには高校生の宣伝活動が効果的だということに自分のやるべきことを感じることができた
- ・インタビューされたぐたいきな話が聞けて役に立った
- ・LGBTの可能性を知ることができた

IV. もっとこうしてほしいことなど、ご要望があればかいてください

- ・特になし

V. その他、自由に感想など書いてください

- ・今まで自分で困っていることに対して、念を押していただきとても勇気がでた
- ・ヘルプマークの質問をすべて丁寧に答えていただきありがとうございました
- ・とても楽しくためになるお話でした
- ・ヘルプマーク以外の質問に答えていただき色々勉強になった
- ・今までに考えていなかった範囲まで関心を持って良かった
- ・昨年オープンキャンパスに行かず、今年は中止になってしまい岐阜大学の校舎に入ったのは初めてだったけどすごく感動した
- ・たくさん話を聞くことができて良かった
- ・お忙しい中ありがとうございました。テーマについての質問がとても解決し知識が増えました 自分の進路についてお伺いしたことも丁寧に優しく答えてくださってうれしかった
- ・看護の楽しさを知ることができました ありがとうございます
- ・とても分かり易く例を交えて教えてくださってとても勉強になった
- ・今回お話を聴けたことでより考えが深まった 今日得た知識を探究活動に生かしていく
- ・普通では聞けないことを聴いたり、お互いに意見を出し合う意味ある時間を過ごせてとても貴重なものとなった
- ・質問に対して私たちと一緒に考えてくださり今後の活動の視野を広げることができた
- ・ひとつひとつの質問に丁寧に説明してくださり私たちが調べきれなかった疑問をなくすことができた
- ・大学教員の方が丁寧に説明してくださりとても分かり易かった

【2年生普通科探究活動 岐阜大学医学部看護学科訪問】

2020. 11. 20



担当	テーマ（テーマに至った経緯と現状）
田中	<p>1. 認知症の人と、どのように共存していくべきか。</p> <p>質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護師として認知症の人と対面したときの心情 ・どのようなスピードで認知症症状が悪化したり回復したりするのか ・認知症増加は少子高齢化が影響しているのか ・もしも身内に認知症の人がいたら、どうすればよいか ・認知症の人と関わる時に気を付けること ・どれくらいの症状の人が病院を訪れるのか ・医療現場での認知症による事故や事件の例 <p>支援内容・支援状況・学生の反応等 活用した資料・媒体</p> <p>学生：3名</p> <p>認知症に関する書籍、絵本、教材を貸し出した。質問については下記のような助言をした。</p> <p>1. 看護師として認知症の人と対面したときの心情</p> <p>認知症にも様々な症状がありますので、一概には答えることはできない。もちろん、認知症の患者さんから言われたことで辻褄が合わなければ、驚き、対応に困ることもある。認知症の診断がついて対面する場合は、ある程度心づもりして関わるが、診断がついていなければ「もうしかして認知症？」と、思う。という心情だと思ふ。</p> <p>2. どのようなスピードで認知症症状が悪化したり回復したりするのか</p> <p>認知症の経過には発症し、軽度から中等度、重度、末期（寝たきり状態や褥瘡・肺炎などの合併症が加わる）といった時期がある。他の疾患によって死亡する事もある。認知症症状といっても中核症状だけでなく、行動・心理症状など、いろいろな症状がある。機能低下の現れる時期も異なる。また、「認知症を発症する一歩手前」とわれる軽度認知障害（MCI）の時期もあり、この時期に早期発見し、日常生活を通して認知的な予備力を高めることが、認知症発症への対策に重要である。</p> <p>3. 認知症増加は少子高齢化が影響しているのか</p> <p>認知症の増加は高齢者の数や割合が増加していることと、認知症への認知が進んでいることが関連している。近年では医療が進み、薬が使用されるようになったが、根本的に認知症の進行を止める働きはなく、飲んでいても最終的には認知症は進行する。しかし、このように認知症への薬が開発され、誰もがなり得る可能性のあるものとして一般的に周知されることで、以前より家族が地域にオープンにできるようになったことも関係している。</p> <p>4. もしも身内に認知症の人がいたら、どうすればよいか</p> <p>自分が高校生くらいになり、認知症への知識が持てるようになってきている状態で、家族に認知症の疑いがある人がいるのであれば早めの受診を勧めてほしい。症状が軽いからこそ、正しく知らないと家族や自分自身でさえも見過ごしてしまう場合があるが、軽度認知障害（MCI）のうちに発見し、早期に対策を行うことで改善が見られたり、発症を遅らせられる可能性がある。しかし、まだ子供であれば難しいと思うので（高校生の場合も同じだが）、「分からないことは分かっている」ということ、そのことが高齢者自身を不安や混乱にさせる場合があるため、「大丈夫だよ」と安心できるような声掛けをすることが必要である。（児童向けの絵本を参考に説明）。</p>

	<p>3. 逆ヘルプマークは実在するのか</p> <p>「サポートハートマーク」というものが存在するが、正式なものではない。そもそもヘルプマークさえ認知されているとは言い難いため、サポートハートマークを更に認知してもらうことは難しく、混乱をきたす可能性がある。手を差し伸べたいと思っている人は、普段からよく観察して、困っている人を見つけるべきであるため、サポートハートマークの必要性はあるのか疑問である。逆にヘルプマークを持っていない人は助けを求め難くなってしまうのではないかという心配もある。</p> <p>4. 悪用を防ぐ方法はあるのか</p> <p>ヘルプマークは転売されている。自治体等で無料で受け取って、メルカリなどのフリマアプリで転売されているのが実情である。また、ヘルプマークの受け取りに法的な拘束力がないため、障害者手帳の確認など無しに配布されている。そのためヘルプマークを免罪符として使用して、何をやってもいいと考える人もいる。何か新しいものができれば、それを悪用する人が現れるというのは世の常である。生活保護を不正受給して、働けるのに働かずに生活している人もいるので、それと同じである。大切なのは、悪用している人側に焦点を当てないことである。皮肉なことにヘルプマークを着けることによって障害者であることが分かってしまい、ひったくりなどの盗難や女性に対しての性暴力などの被害が加速しないか心配である。</p> <p>■高校生との意見質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヘルプマークを着けている人に声をかけていいのかどうか、どのような声をかければいいのか迷う。 →困っているようであれば、「何かお手伝いできることはありますか?」といった具合に声をかければいいのか。必要なければ断られるでしょうから、勇気を出して声をかければよい。 ・高校生として認知を広げるためにできることはないか。駅前などの街頭でのアナウンスはどうか。 →若者を対象にするのであれば、現在は SNS を活用することが早いのではないか。街頭でのアナウンスも、それなりに効果があるのではないか。 ・ヘルプマークを着けている人について「頑張ってる」と言ってしまうそうであるが、うつ病の人には言うてはいけないと聞いているので、なぜいけないのか。 →うつ病の人の場合、それまで精一杯頑張ってきている人が多いので、「頑張ってる」と言われると「もうこれ以上頑張れない」と思ってしまう。励ましよりも労いが大切である。 <p>■所感</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段、電車で通学している中で生じた疑問であり、興味を持って取り組んでいた。ある程度自分たちで調べられており、自分たちにできることは何か、という視点で考えていた。ヘルプマークの悪用を防ぐ方法については、視点を変えることで発想の転換につながったような印象であった。
井關	テーマ
	3. 日本社会とLGBT ～世界の国々との違い～
	質問
	<ul style="list-style-type: none"> ・岐阜県はLGBTの人にとって過ごしやすい自治体なのか。 (できれば岐阜県のLGBTの人に対する取り組みについての資料やお話をいただきたい) ・世界の国々でLGBTの人にとって過ごしやすい国はどこか ・なぜLGBTの人に対するいじめや差別はなくなるのか

・どうすれば、いじめ・差別がなくなるか

支援内容・支援状況・学生の反応等

活用した資料・媒体

学生 4名

性的少数者に関する書籍、パンフレット、研修チラシ等を補助教材とし書籍を貸し出した。質問等に下記のような助言をした。

■質問への回答

1. 岐阜県、岐阜大学の取り組み

過ごしやすいかどうかは判断できないが、濃加茂市、関市、多治見市では「パートナーシップ制度」等の、性的少数者への支援を行っているため、調べると良い。他大学と同様に、岐阜大学にも「にじねこ」という当事者や支援者のサークルがあり、活動している。岐阜市でも「はろっと・ぎふ」という団体が2ヶ月に1回くらいの頻度で茶話会や講演会を開催している。他にも活動する団体はあると考えられる。文部科学省も性的少数者の児童生徒に対して学校生活において配慮するよう通達を出している。

2. 世界の国々でLGBTの人々が過ごしやすい国

過ごしやすいかはわからないが、同姓婚を合法とする28カ国あり(R2.9現在)、G7のうち日本だけが合法ではない(イタリアは同姓婚は合法ではないが同姓婚に準ずる制度がある)。「同姓婚」「法律」をキーワードに調べると良い。しかし、各国特有の文化や事情があり同性婚の是非は単純に判断出来ない。性別変更について定めた法律が日本にもあるが、日本は長男が家産を相続する事が多い国では難しい議論で、天皇家の跡継ぎ問題に代表されるように、日本は明確に男女の社会的役割が区別される。性役割分業意識が強い国では議論は進みにくいのではないか。

3. LGBTの人に対するいじめや差別の要因

日本を含め多くの国で、ボーイッシュな女性は比較的受け入れられるが、女性らしい男性は差別的な言動に曝され社会の受け入れが悪い。その理由として、男性優位社会であるほどその傾向が強い、つまり女性は価値が低いと見做されるためだという説がある。仮に母系社会で女性優位社会であったとすれば、どうか考えてみるとよい。また、身体が完全に男性化したMtFは、治療しても女性化が難しいが、本人が性自認に従った生活を送るとなると周囲の受け入れが難しい現実もある。しかし当事者は趣味嗜好で異性装をするわけではなく、自分自身を取り戻す大切な時間だと聞いた。社会の性別2元論について考えると、何かヒントがないだろうか。

4. いじめ・差別をなくす方法

当事者が何に苦しんでいるか、社会に理解されていないのではないだろうか。あなたたちは、これまで性的少数者に関する授業を学校で受けた事はあるのだろうか。少なくとも性指向そのものが健康問題に発展することはない。しかし性同一性障害当事者は身体への違和感と苦痛のため心を病み、自殺に至ることもある。いじめや差別で命を落とす事もある。

■高校生との意見質問

- ・性的少数者の入れは、高齢者ほど抵抗感が強いような気がする。
- ・高校でも女子がパンツスタイルを選べるようになり、其れを着用する女子学生もいる。最初はそれを見て違和感があったが、だからといってそれを排除するような事は無い。高校のパンフレットに、女子のスカートとパンツスタイルの2つのイラストがあったが、男子もパンツのみでなくスカートのイラストがあっても良いのではないか。
- ・父親から芸能界でのゲイの話も聞いたが、思春期の娘である自分には衝撃が大きかった。

	<p>・性別変更者や、同性パートナーカップルが子どもを望む場合、生殖補助医療しかないのか。 →子宮移植、精子提供、出自をする権利、精子提供者が激減したため、医療施設ではなく闇サイトが仲介し妊娠を試みる例もあり、問題も発生している。</p> <p>・生殖補助医療により生まれた子どもの出自を知る権利への議論の高まりから、近年、精子提供者は激減している。</p> <p>・子宮移植も実験が進んでいる。専門家の間では FtM の不要な子宮を、MtF に移植との話もある。</p> <p>■所感</p> <p>・昨年度から発展したテーマで、今年は基礎知識を身につけた状態で取り組んでいた。質問事項のみならず、性表現、リプロダクティブヘルスや生命倫理、生殖補助医療、社会のありようと性別の関係等、性的少数者に係わる問題について感想や意見がでており、新しい視点で発想が広がった様子であった。</p>
金子	テーマ
	<p>4. チョコレート効果と健康</p>
	質問
	<p>・機能的チョコレート（GABA、乳酸菌ショコラ、LIBERA、オリゴスマート等）は胃の中で溶けても効果があるのか</p> <p>・ニキビ予防に効果のある成分は何か</p> <p>・機能的をうたう商品をよく見かけるが、日本人の健康に対する考え方はどう変化しているか</p>
	支援内容・支援状況・学生の反応等 活用した資料・媒体
	<p>来校できず資料提示を希望されたため、引率教員に手渡した</p> <p>1. 機能的チョコレート（GABA、乳酸菌ショコラ、LIBERA、オリゴスマート等）は胃の中で溶けても効果があるのか →乳酸菌 T001、GABA について (資料提示) 松尾裕ほか. GABA 誘導体の胃酸分泌作用及び胃吸収について 基礎的研究並びに臨床応用.</p> <p>2. ニキビ予防に効果のある成分は何か →ビタミン B 群 ビタミン B2・B6 ・E 食物繊維</p> <p>3. 機能的をうたう商品をよく見かけるが、日本人の健康に対する考え方はどう変化しているか →機能的食品と健康意識について</p> <p>1) 消費者の健康志向の高まりを背景に、長寿の国や地域などで食されている成分を調べるなど、整腸作用や感染防御作用、抗アレルギー効果などに関する研究が進められてきた。 (資料提示) 立垣愛郎.乳酸菌の健康機能.Comprehensive Medicine, 17(1),2018.</p> <p>2) 楽しみながら健康的な生活につなげる意識の高まりもあり、カカオに含まれるポリフェノールが閉経後の女性の様々な身体の不調を改善することや、脳卒中により死亡リスクを低減するなどの研究を通して、健康に良い食べ物を積極的に摂取するようになってきた。 (資料提示)：夏目みどり.チョコレートの歴史・食文化と機能的.科学と教育,67(4),2019.</p>

生徒の自己評価文

探究活動を通して身に付けた力・学んだ事	
ヘルプマーク	<p>自分は何も知らないんだなと実感した。意外と身近なところでも自分が知らない、気づいていないことが多くて、発表をしても、他のグループのを聞いていても、新たに知ることが多くて面白かった。また、活動を通して、自分のやることに責任が持てるようになったと思う。意見をかわしていく中で、相手に聞かれたり、次のことを考えていくとき自分の意思をもって発言できた。</p>
	<p>アンケートをしてみると、知っていても理由を知らなかったり、もともと知っていなかったりなど、アンケートをしてみないと分からないなと思った。また聞く人に分かりやすく伝えるために、分かりやすい表現を使ったり、また例を出して相手に想像させたりなど工夫を凝らすことができた。さらに質問されても答えられるようにネットや大学の先生の話聞いて、ヘルプマークについて詳しく調べることができた。</p>
	<p>自分が疑問に思ったことをただつぎとめるだけでなく、他の人が聞いたときにどのような問いが出るのかなど考え、色々な立場から考えることができました。また、調べることによって、新しい問いが出てきて、それを調べるということをくり返したことにより、とても深い学びになりました。</p>
	<p>ヘルプマークについて調べていましたが、人と人との関係や、人への配慮に関して、ヘルプマークを通して、再確認することができました。また、発表するときに、1回目に伝えたかったことが伝えられなかったという反省から、2回目は要点を押さえて、ゆっくり「伝える」ということを意識して、話すことができた。</p>
チョコレートと健康	<p>疑問に思ったことを、実験、検証しながらより深く調べていくことができた。</p>
	<p>どれだけ中身を凝っても、話したいことが伝わるような話し方をしないと、意味が無くなってしまうということが分かった。 中身で分かりやすくする力はつけられたので良かった。 沢山の先生に褒めて頂けたので良かった。</p>
	<p>伝えたいことがあっても伝え方で伝えられなくなってしまうと分かった。 端的にまとめること。 人前は思っている以上に緊張する。</p>
LGBT	<p>探究をする前は「日本で同性婚が認められないのは、少子高齢化もあって政府にとって都合が悪いからでしょ」と思っていたけど、ネットだけでなく、本や岐阜大学の先生のお話から自分たちなりにまとめることができてよかったです。 このテーマをさらに研究したいと思ったので時間の空いているときに調べてみようと思いました。</p>
	<p>日本と世界での物の受け取り方の違いが少し分かった。 文化・社会背景など多くの視点から見ることで違った見方ができた。</p>
	<p>今まで自分が知らなかった社会問題や人々の悩みについて知ることができたと思いました。また、ポスター作りでは聴く人が見やすい字の大きさ、位置を考えて書くことができました。</p>
認知症	<p>高齢化社会が進んでいくなかで、特に「認知症」という病気について興味をもち、探究活動を通して調べました。昨今は医療も大変充実していて、薬で治療している患者もいます。ですが、それは記憶障害や行動障害を劇的に改善する効果はありません。患者にとって大きな支えとなるのは周りの人との関わりであることが分かりました。また、患者に質の高い生活を提供するにはコミュニケーションをとることも、手段の1つと言えます。「大丈夫だよ」と優しく声をかけてあげることがとても大切です。認知症は早期発見、完治が難しいからこそ、私たちの関わり方が患者に大きな影響を与えたいと思いました。</p>
	<p>人前で発表する力、アドリブ力、仮説を立ててそれをより深めていく力</p>

生徒の自己評価文

	不十分だった点・改善したい点
ヘルプマーク	誰かに頼るということができなくて、爆発しそうだったので、自分でやるのもいいけど、自分のできる範囲を考えて活動していくと、よりグループワークの意味があると思った。
	発表する際に詰まってしまったり、早口になってしまった。
	緊張で話すことを忘れてしまい、正確に伝えることができなかったのもっと落ち着いて発表をしたかったです。 相手の反応を確認しながら発表することがあまりできなかったのも、今後発表する機会があったら気をつけたいです。
	探究内容について、アンケートから分かった結果から、ヘルプマークの認知度をアップさせるための考察をもっと深めていき、具体的な改善策を提示できるようにすれば、さらに、私たちの伝えたいことや探究の内容が伝わったのではないかと思った。また、1枚の模造紙にまとめられなかったことを、言葉だけで伝えてしまったため、聴き手には分かりづらかったのではないかと思ったので、示す図をさらに追加すれば伝えやすかったと思う。
チョコレートと健康	調べていくなかで、新しい疑問が生まれたので、それをより深く、探究していきたい。
	早口になりがちだったが、発表する相手の方を見ることで2回目は上手くいった。1回目の子たちに申し訳ないと思った。 落ち着いて話せるようにもっと練習するべきだった。
	1回目で早口になってしまったこと。 質問に落ち着いて答えきれなかったこと。
LGBT	質問されたときに何を答えたらいいのか分からなくてまだまだLGBTについて調べ足りないと感じました。自分の志望学部にも関わってくる話なので、春休みを利用してもう少し調査をしたいと思いました。
	ハッキリとした定義をつくることは難しいので、もっと多くの人の体験談を聞いたり調べておくべきだった。
	外国のLGBTに対する最新の取り組みを知らなかったのも、アメリカでは50個の性別区別があることのも質問されたとき、すぐに答えられなかったから、広い範囲で調べてみたらよかったと思いました。
認知症	様々なデータを利用するとき、誰を対象とした割合なのかを説明せず、少し誤解を招いてしまいました。今後データを利用していく際には、明確な根拠を提示できるよう、もれなくチェックしていきたいです。
	目を見て話す、背を向けない

令和2年度 探究活動発表会

2021. 2. 15.



808 プラスハート ～ヘルプマークを知っていますか？～

★ヘルプマークとは...?
援助や配慮が必要な人のためのマーク



＜仮説＞

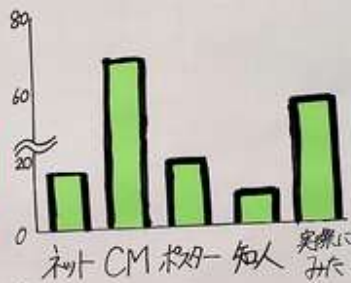
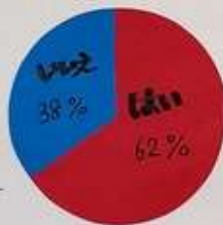
実際に意味を知っている人は少ない

＜アンケート内容＞

- ① ヘルプマークを知っているか (円グラフ)
- ② どこで知ったか (棒グラフ)

＜結果＞

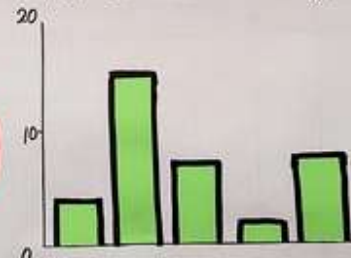
生徒



クイズを行ってみたら

知っているも内容を理解している人は少ない!

教員



生徒より内容をよく理解していた。

大学の先生から見ても認知度は低い CMは効果的である
(岐阜大学 大平幸子先生の話より)

① 私たちにできることは?

- 相手をよく観察
- 困っていたら声をかける

利用者にとっかかりをつくってあげることが

大切!

校内にもポスターがあるので探してみよう★

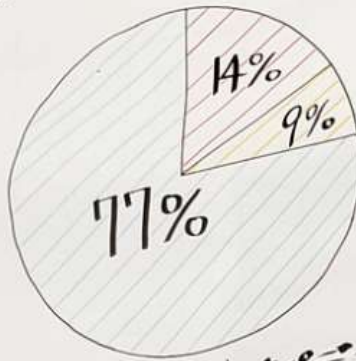
日本社会と

LGBT

～世界と日本の違いについて～

仮説 海外の人と日本人の性格の違いから世界と日本には違いがある

世界の約1/4の国々が認めている



同性婚を認めている国
フランス
イギリス
オーストラリア

パートナーシップを認めている国
イタリア
スイス
メキシコ

認めていない国
スーダン
イラン
サウジアラビア

ウイパテア「同性結婚」より

日本では...

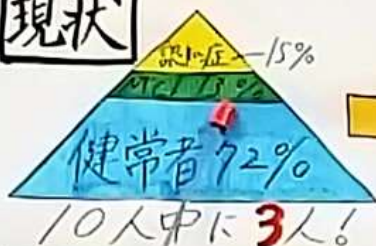
- ▶ 養子縁組制度: 家族としての権利を受けとる唯一の方法
- ▶ パートナーシップ制度: 各自治体が同性カップルの関係を婚姻相当に認める制度

結論 性格の違いではなく、日本のLGBTに対する取り組みの遅れから世界と差が出ている。

まとめ 日本がLGBTを認めないことに宗教的な理由はないため、ひとりひとりの意識を変えて、LGBTが受け入れられる環境づくりが必要である。

認知症施策の現状

現状



仮説

認知症施策は
薬だけではない

結果

認知症施策の方向性

1. 認知症ケアパスの作成

3. 地域での医療サービス

2. 早期診断・早期対応

4. 地域での介護サービス

気づき

急性増悪

回復

5. 地域での日常生活・家族の支援の強化
6. 若年性認知症の強化
7. 医療・介護サービスを担う人材の育成

考察

◎ 周りの人

◎ 社会

↓
不調を見逃さず
関わり合う

↓
社会復帰
を目指したケア

まとめ

普段のコミュニケーションが大切!!

を食るとニキビになるって本当?

<仮説①>

Q チョコレートとニキビに関係があると思うか。



<調査方法>・計4アラスへのアンケート・岐阜大学の先生紹介の論文

<結果①>

Q チョコレートを食ったことがニキビの原因か。

⇒ あると答えたのは **29%**

医学的に見ても関係がない。

○ ニキビの原因となるもの → 脂質糖質

○ チョコレートには肌への良い成分 **(有)**

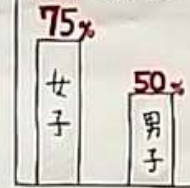
(X) ポリフェノール, 抗酸化作用

<仮説②>

○ 2019年のチョコレート売上ランキング上位2位中 10個が機能性チョコレート
○ 近年機能性チョコレートが多様化
→ 日本人の健康意識が向上?

<結果②>

Q 機能性チョコレートを食べたことがあるか。



○ 高カカオチョコレート → 血圧低下効果
○ ポリフェノール → 心疾患、脳卒中のリスク

<考察>

○ チョコレートには肌への良い効果や生活習慣病の予防効果がある。

機能性チョコレートの種類が増加傾向にある。

→ 日本人の健康への意識が向上している。

○ チョコレートを食べて肌への悪影響を及ぼさないためには 乳酸菌, 乳糖 が含まれるのが良い。

○ 生活習慣病を防ぐためには 高カカオチョコレート が良い。

出典(チョコレートの歴史・食文化の発展) Foodery / GABA(糖質)の削減と健康効果(糖質)の削減(糖質) / 高カカオチョコレート / 明治食品ページ)

岐山高校学生の基礎看護学授業への参加【確認事項】

1. 活動内容

- 基礎看護学授業への学生参加【科目名：基礎看護技術Ⅰ 科目責任者：社本先生】

2. 内容・参加者・準備

日時		内容	参加者	到着時間	開始【集合】	終了【集合】
12 / 18 【金】	基礎看護学授業参加	<p>清潔【洗髪】</p> <p>岐阜郁子さんに洗髪を行うための方法をグループワークしその後実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> この時間の担当：社本、水野、中島 先生 <p>【基礎看護学との確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎実習室：スリッパ2足依頼 ユニフォーム（社会貢献教員が準備） 写真（看護学科学生への依頼方法 <p>⇒ 授業開始時、基礎の先生から看護学生に声をかけていただく）</p>	2名 (女子)	16:30頃 (保護者の車またはタクシーで来学)	16:30 会議室 <ul style="list-style-type: none"> 岩佐先生が担当、実習室では同席くださる 健康チェックシート【岐大版】、健康チェックカード【岐山高校版】の確認 タイムスケジュール、アンケート記入の説明 大学教員が基礎看護学実習室に案内 (担当：太平、金子) 	18:00 会議室 アンケート

3. 評価

- アンケートの実施
- 岐山高校が実施したアンケート【基礎看護学演習参加】結果も提供していただく。
- 可能な範囲で、授業参加に関する学生の感想、同席教員の意見等も入手する。

岐山高等学校の皆様へ アンケートのお願い (2020年度版) 基礎看護学分野授業への参加

皆さん、本日はお疲れさまでした。実りある活動になりましたでしょうか。看護学科は、この取り組みの効果
を把握するために、無記名アンケートを実施したいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。
記入が終わりましたら、部屋のドア付近に設置した回収箱に入れてください。

I. 今日の目的は何でしたか。

[]

II. 今日の目的は達成できましたか。 1つに○をつけてください。

- () できた
- () まあまあできた
- () あまりできなかった
- () できなかった

III. 最も印象に残ったこと、その他、自由に感想など書いてください。

[]

ご協力ありがとうございました。

岐山高等学校の皆様へ アンケートのお願い (2020年度版) 基礎看護学分野授業への参加

皆さん、本日はお疲れさまでした。実りある活動になりましたでしょうか。看護学科は、この取り組みの効果
を把握するために、無記名アンケートを実施したいと思います。どうぞご協力をお願いいたします。
記入が終わりましたら、部屋のドア付近に設置した回収箱に入れてください。

I. 今日の目的は何でしたか。

[]

II. 今日の目的は達成できましたか。 1つに○をつけてください。

- () できた
- () まあまあできた
- () あまりできなかった
- () できなかった

III. 最も印象に残ったこと、その他、自由に感想など書いてください。

[]

ご協力ありがとうございました。

2020年度 高大連携 基礎看護学分野授業への参加 アンケート集計結果（12月18日実施）

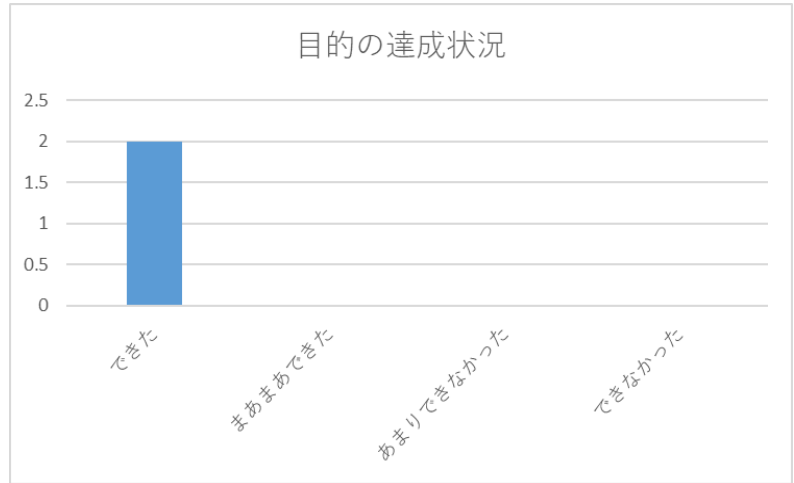
参加者人数：2名 アンケート回収数：2部 回収率：100% 対応教員：井關・大平・金子

I.今日の目的は何ですか

- ・看護の授業を実際に見て、どのような授業をしているのか知る
- ・看護学科の授業を見学して勉強の力にする

II.今日の目的は達成できましたか

- できた（2）
- まあまあできた（0）
- あまりできなかった（0）
- できなかった（0）



III.最も印象に残ったこと、良かったことがありましたか あったとしたらどのようなことですか

- ・学生の方に看護学科に入学したきっかけなどを質問することができた。私も頑張ろうと思うことができた。
- ・途中からの参加でしたが、みんな患者さんのことを考えて多く工夫し、交流しているのが印象に残りました。初めて授業風景をみてとても新鮮でした。

岐阜大学医学部看護学科 基礎看護学演習見学

令和2年12月18日（金） 16：30～18：00

参加生徒の感想

2年生 A

授業見学をさせていただく機会があると聞いたとき、迷わずすぐに申し込みをしました。その時は、授業の様子を遠めの場所から見学させていただくものだと思っていました。でも、実際は学生さんの中に交じってレポートを見せていただいたり、話を聞かせていただいたり、参加させていただく形での見学で、高校生には少し戸惑ってしまうこともありましたが、楽しかったというよりは、看護師を小学校の時から志す私にとって、非常に勉強になったと感じるものでした。本当に素敵な機会をありがとうございました。

学生さんたちは、あらかじめ洗髪の方法を自分たちで調べ、練習し、仲間同士で意見を交流し、自分自身を高めていると、学生さんの一人が話してくださいました。私も受験生になるので、わからないと勉強で感じたときは相談して自分を高めていきたいです。また、「勉強つらいかもだけど頑張れ！待ってるから。」と声をかけていただけたので、これからも勉強を頑張ります。

2年生 B

途中からの参加で、話し合うところを見学できなくて残念でしたが、実際に道具を使って実習し、考えたことを発表するという授業は新鮮でした。2つのグループで、それぞれ患者さんのことを考えた違った工夫がしてあり感心していましたが、質問をする場では他のグループの方が様々な質問をしており、たくさんの交流の場があるんだなと思いました。こんな機会はほとんどないので、今回の見学は良い経験となりました。



2. 卒業生支援プログラム

令和2年度 卒業支援プログラム振り返り

1. 令和2年度目標

- 1) 「岐阜大医学部看護学科卒業生の動向および要望に関する調査」の調査結果に基づいた活動を実施する。
 - (1) 「卒業生・在校生交流会」の開催
 - (2) 卒業生が大学に相談できる方法の整備
- 2) 「Home Coming Day」、「卒業生・在校生交流会」の定例化と同窓会共催について検討する。

2. 活動内容と評価

- 1) 「岐阜大医学部看護学科卒業生の動向および要望に関する調査」の調査結果に基づいた活動を実施する。
 - (1) 「卒業生・在校生交流会」の開催について
 - ・「卒業生・在校生交流会」を12月に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とした。
 - (2) 卒業生が大学に相談できる方法の整備について
 - ・専用メールアドレスを取得し、卒業生相談窓口を開設した。卒業生相談窓口については看護学科HPの「お知らせ」と「卒業生の方へ」に「卒業生相談窓口開設のお知らせ」を掲載した。また多くの卒業生が就職している岐阜大学医学部附属病院にも配付をした。さらに今年度卒業生に対しては全員にチラシを配付し口頭での説明を行った(2月2日)。3月16日現在までに卒業生からの相談は2件あり、問い合わせのあった卒業生が希望した教員へ面談をしてもらえるよう連絡をした。
- 2) 「Home Coming Day」、「卒業生・在校生交流会」の定例化と同窓会共催について検討する。
 - ・「Home Coming Day」、「卒業生・在校生交流会」の定例化と同窓会共催については検討中であり、また新型コロナウイルス等の配慮も必要となる。次年度以降も引き続き検討していく。
- 3) その他
 - ・「第8回岐阜看護学会論文集」に論文2編が掲載された。
 - (1) 三枝聖美, 中島美奈子, 臼井かおり, 小林和成, 石原多佳子:「岐阜大学医学部看護学科卒業生の本学科に対する要望—1期生から14期生の動向調査より—」, 第8回岐阜看護学会論文集, 33-36, 2020.
 - (2) 臼井かおり, 中島美奈子, 三枝聖美, 小林和成, 石原多佳子:「潜在看護職の現状と大学における役割—岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向調査より—」, 第8回岐阜看護学会論文集, 13-16, 2020.

3. 令和3年度に向けての課題

- ・平成30年度に看護学科に対する要望調査を行い、令和元年度、令和2年度と調査結果に基づいた活動を実施したが、参加人数の増加はなく卒業生の反応は乏しい。また新型コロナウイルスの影響から、医療職者である卒業生は感染対策の観点で行動範囲を自制していることが予測されるため、今までの開催方法では参加しにくいと考えられる。広報方法とともに開催方法の検討が必要である。
- ・卒業生は就職先において悩みながらも職場や同僚に支援を受けながら活躍をしており、それを卒業生間で共有できることは更なる意欲やキャリア支援につながると考える。また卒業生が在学生である後輩の育成に関わることは自己の看護の振り返りとなり、卒業生と在校生の双方が成長できる機会であることがアンケートからわかっている。「Home Coming Day」、「卒業生・在校生交流会」ともに継続して実施していけるよう検討していく。
- ・卒業生支援プログラムの構成員が退職により2名となったこともあり、卒業生は看護専門職であるため、今後は専門職を磨く教育プログラムと統合して活動していくこととする。

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

卒業生支援プログラム

卒業生相談窓口開設のお知らせ



岐阜大学医学部看護学科社会貢献部会では、卒業生支援の一環として卒業生のための相談窓口を令和2年度に開設しました。

卒業して困ったこと・就業相談・進路相談・研究相談・メンタルヘルス相談などどんなことでも、まずはお気軽にご連絡・ご相談ください。卒業生支援プログラム担当者が窓口となり、適切に対応できる教員等をご紹介します。

個人情報厳重に保護いたしますので、ご安心ください。

sien_gun@gifu-u.ac.jp もしくはQRコードへ送信ください。

文面に①～④について差し支えない範囲で記載して送信ください。

① 卒業年度 ② 氏名 ③ 就業場所 ④ 相談内容



問い合わせ

岐阜大学医学部看護学科 社会貢献部会

岐阜大学医学部看護学科プロジェクト

TEL 058-293-3218 〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1

E-Mail sien_gun@gifu-u.ac.jp



国立大学法人

岐阜大学

3. 専門職を磨く教育プログラム

専門職を磨く教育プログラム

1. 目的

時代と地域のニーズに応じた看護が提供できる看護師を育成する。

2. 目標

- 1) 看護における最新の情報提供を行い、看護実践能力の向上をはかり、日々の看護に意欲的になる。
- 2) 看護教育についての情報提供を行いスタッフや新人の教育方法に活かせるようにする。
- 3) 看護職に対するニーズ調査を行い今後のプログラム内容の検討をする。

3. 活動内容

1) Gifu クリティカルケア研究会

本研究会は、クリティカルケア看護に関して、教育・臨床・地域で活躍している人々との人的交流を深め、クリティカルケア看護に関する知識と質の向上のためのクリティカルケア看護に関する知識と質の向上のための情報発信を行っている。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置のため、開催を中止した。

2) 「看護職の管理者および教育担当者、中堅看護師のとらえた看護実践能力向上の課題と看護系大学に求める支援」インタビュー調査報告

今後の専門職を磨く教育プログラムが、看護の現場と密着した内容になっていくために、県内の主な病院の看護管理者、教育担当者、中堅看護師に対するインタビュー調査を通して看護の課題や、大学に求めるもの等を検討している。

今年度の成果は、日本看護研究学会第46回学術集会にて発表を行った。

3) 「LGBT・性同一障害と医療・看護」研修会

情報を得る機会が少ないといわれるLGBTや性同一性障害について基礎知識を提供する講義と、LGBT当事者との交流を通して看護職ができる支援を考える機会とした。

4) 臨地実習指導者と臨地実習指導担当教員の交流会

臨地実習に携わる臨地実習指導者、臨地実習担当教員を対象に、実習指導について意見交換をし、課題を解決する糸口を共に考えるための交流会を計画している。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止措置のため、開催を中止した。

演題名：中堅看護師が捉える看護実践能力向上の取り組み（第1報）－看護実践能力向上に対する強み－

【目的】中堅看護師には、刻々と変化する臨床の状況を部分的ではなく全体として捉えながら看護実践を行う役割がある。本研究は、中堅看護師が捉える看護実践能力向上に対する強みを明らかにする目的で行った。

【方法】対象：研究者所属大学の卒業生が就業している病院に勤務する経験年数5年以上で役職を持たない看護師のうち研究協力の同意が得られた者。調査方法：看護実践能力向上に対する強み、課題、課題の解決方法について30～40分程度の半構成面接を行った。分析方法：面接内容は研究協力者の同意を得て録音し、逐語録を作成した。逐語録から看護実践能力向上に対する強みを抽出し、意味内容が分かるまとまりでコード化した。各コードの類似性に基づきサブカテゴリー化し、さらにカテゴリー化した。分析の際は、質的研究を専門としている研究者を含む研究者間で繰り返し検討し妥当性を確保した。研究者所属機関の倫理審査委員会にて審査・承認を得て実施した（承認番号29-388）。本研究を遂行するにあたり利益相反はない。

【結果】研究協力者は、経験年数6年以上24年未満の看護師6名であった。看護実践能力向上に対する看護職の強みは、55コード、12サブカテゴリー、4カテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを《》、サブカテゴリーを〈〉で示す。〈みんなで同僚を育てる意識〉〈同僚を頼る意識〉は《みんなで成長する風土》に、〈安心できる環境〉〈医療チームの連携が良い〉などは《人間関係が良い》に、〈充実した研究会〉〈経験できる技術・学べる疾患が多い〉などは《学ぶ機会が多い》に、〈患者対応が良い〉〈患者の立場に立ったケア実践〉〈主体性のある対応〉は《専門性の高い対応》に集約された。

【考察】中堅看護師が、〈みんなで同僚を育てる意識〉や〈同僚を頼る意識〉という個人の成長だけでなく《みんなで成長する風土》を意識することで、〈安心できる環境〉や〈医療チームの連携が良い〉といった《人間関係が良い》環境を生み出していた。また〈充実した研修会〉など《学ぶ機会が多い》ことも強みとして捉えていた。その結果、〈患者の立場に立ったケア実践〉が行え、《専門性の高い対応》につながると考える。

中堅看護師が捉える看護実践能力向上の取り組み（第2報）

一看護実践能力向上に対する課題一

【目的】本研究の目的は、中堅看護師が捉える自施設看護師の看護実践能力向上に対する課題を明らかにすることである。

【方法】対象：研究者所属大学の卒業生が就業している病院に勤務する臨床経験5年以上で役職を持たない中堅看護師のうち、研究協力に同意が得られた者。調査方法：看護実践能力向上に対する強み、課題、課題の解決方法について、30～40分程度の半構成面接を行った。分析方法：面接内容は研究協力者の同意を得て録音し、逐語録を作成した。今回は逐語録から看護実践能力向上に対する課題を抽出し、意味内容が分かるまとまりでコード化した。各コードの類似性に基づきサブカテゴリー化し、さらにカテゴリー化した。分析の際は、質的研究を専門とする研究者を含む研究者で繰り返し検討し妥当性を確保した。研究者所属機関の倫理審査委員会にて承認を得て実施した（承認番号29-388）。本研究を遂行するにあたり利益相反はない。

【結果】研究協力者は、経験6年以上24年未満の6名であった。逐語録から、83コード、16サブカテゴリー、5カテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを《》、サブカテゴリーを<>で示す。中堅看護師は、《新人・若手看護師の基本的看護実践能力の課題》があり、《新人・若手看護師育成における課題》には、<新人看護師に対する教育的でない対応がある>や<新人看護師への指導に時間がかかる>等を捉えていた。《看護師の看護実践上の課題》では、<患者中心の看護を行うことができない>や<認知症ケアが難しい>が示された。また、《看護師としてのキャリア形成の課題》として、<看護師としてのキャリアプランが不在>や<看護師を継続するモチベーションが不十分>、<退職していく多数の看護師がいる>ことを捉えていた。これらの背景には《看護を充実させるための人材が不足している》ことを認識していた。

【考察】中堅看護師が捉える自施設看護師の看護実践能力向上に対する課題は、看護実践上の課題やキャリア形成の課題、新人・若手看護師育成の課題があり、背景には看護を充実させるための人材不足があると認識し、看護実践能力向上のために、これらの課題の解決方法を模索していた。

演題名：中堅看護師が捉える看護実践能力向上の取り組み（第3報）－看護実践能力向上に対する課題の解決方法－

【目的】中堅看護師が捉える看護実践能力向上に対する課題の解決方法を明らかにすることである。

【方法】対象：研究者所属大学の卒業生が就業している病院に勤務する臨床経験5年以上で役職をもたない中堅看護師のうち、研究協力に同意が得られた者。調査方法：看護実践能力向上に対する強み、課題、課題の解決方法について30～40分程度の半構成面接を行った。分析方法：面接内容は研究協力者の同意を得て録音し、逐語録を作成した。逐語録から看護実践能力向上に対する課題の解決方法を抽出し、意味内容がわかるまとまりでコード化した。各コードの類似性に基づきサブカテゴリー化し、さらにカテゴリー化した。分析の際は質的研究を専門とする研究者を含む研究者間で繰り返し検討し、妥当性を確保した。研究者所属機関の倫理審査委員会にて承認を得て実施した（承認番号29-388）。本研究を遂行するにあたり利益相反はない。

【結果】研究協力者は、経験年数6年以上24年未満の看護師6名であった。看護実践能力向上に対する課題の解決方法は、39コード、17サブカテゴリー、5カテゴリーが抽出された。以下、カテゴリーを《 》、サブカテゴリーを〈 〉で示す。看護実践能力向上に対する課題の解決方法には、〈育ちを待つ〉〈繰り返し指導する〉等の《個別的で実践的な指導》や〈目標の明確化への支援〉〈就労への動機づけ〉等の《組織からの継続的なサポート》が必要であり、それが〈患者を中心に考える経験を積む〉等を経て《看護への動機づけの強化》につながると捉えていた。また、《個別的で実践的な指導》や《組織からの継続的なサポート》、《看護への動機づけの強化》により、〈経験からの学び〉等を得て《自分の成長》になると捉え、〈自身のストレスコーピング〉による《メンタルヘルス・マネジメント》が相互に関連していると捉えていた。

【考察】課題の解決には、看護師自身の成長を支援すること、その為には、個別的な指導に加え組織的な支援を充実させ、看護への動機づけも強化する必要性を認識していた。そして、それらの背景には、看護師自身のメンタルヘルス・マネジメントが関連していると認識していた。（900字/900字）

LGBT・性同一性障害と医療・看護

《主催者・共催者より》

LGBT や性同一性障害について医療職が知ることは重要であると言われてはいますが、情報を得る機会が少ないのが現状です。そこでこのたび、簡単な基礎知識の講義と LGBT 当事者さんおよびご家族との交流を通して、私たち看護職ができる支援を考える機会にしたいと考えて、このたび看護部の協力をいただき、この研修会を開催させていただくこととなりました。

《主催者および特定非営利法人 ASTA より、研修会当日にお願いしたいこと》

- ・恐れ入りますが、アンケートへの協力とご寄付をお願いしたいので、筆記用具とお財布もお持ちください。
- ・どうぞ、ASTA の活動を、資金面でもご支援ください。



1口500円以上で、Ally（支援者）Goods（キーホルダー、マグネット等）をお渡しいたします。

ご寄付は ASTA の活動（学校、企業等への出張研修）資金として活用いたしますので、どうぞご協力をお願いします。

日時：令和2年11月9日（月） 13:00～15:00

講師：井關敦子（医学部看護学科 教授） 松岡成子（特定非営利活動法人 ASTA 代表）

会場：岐阜大学医学部附属病院 北診療棟3階 WEB カンファレンスルーム

対象者：看護職

定員：30名程度

申し込み方法：ナシストから入力して下さい。〇月〇日（〇）までをお願いします。

研究内容に関する問い合わせ：医学部看護学科 井關敦子

(E-Mail : akko1003@gifu-u.ac.jp 電話：内線 3228)

《タイムスケジュール》

時間	内容
13:00～13:10	始めのアンケート（2種）、メンバーの挨拶・説明
13:10～14:00	基礎知識について講義
14:00～14:50	LGBT 当事者および家族の語り
14:50～15:00	終わりの挨拶、終わりのアンケート（2種）
15:00～適宜	個別質問、フリートーク



主催：LGBT および性別違和の理解を社会に促す研究会（代表：岐阜大学医学部看護学科 母性看護学 井關敦子）

共催：岐阜大学医学部看護学科 地域貢献事業

協力：岐阜大学医学部附属病院看護部

特定非営利活動法人 ASTA（本部：名古屋市瑞穂区）

（教職員/保護者/児童生徒/企業に向けて性の多様性や人権の啓発活動を実施）

4. 看護研究支援プログラム

1. 目的

看護職にとって研究は欠かせないものとなっている。初めて看護研究に取り組んだり、看護研究に行き詰まっている看護職を対象に、基本的な看護研究に関する知識に関する研修会を行う。加えて、担当者全員による個人・施設単位の個別研究相談によって研究に関する疑問等を解決していくことによって、岐阜県の看護専門職が自らの専門性を磨くことを可能にする。

2. 目標

- 1) 新型コロナウイルス感染症の動向を鑑み、研修会・個別相談会の開催を行う。
- 2) これまでの研修会の成果と課題、臨床での看護研究の現状と支援について明らかにするための調査研究に着手する。

3. 活動内容

令和2年度は、計画していたすべての研究会および個別相談会を実施することができなかった。個別相談に関して昨年度からの継続していた3施設（岐阜日本赤十字病院、高山厚生病院、岐阜大学医学部附属病院）は担当した教員で個別に相談に対応した。また、岐阜大学医学部附属病院看護部から看護研究に関する講習会の講師依頼を受け令和2年10月6日に実施した。

コロナ禍でも看護の力が求められる今だからこそ研究という形で皆様の業績を残すことも大事ではないか考え、来年度は看護研究研修会を6回開催する計画を立てた。第1回は令和3年3月23日に開催予定であるが、早々に申し込みがありこの研修会のニーズが高いと感じている。感染対策を十分の行い研修会及び個人相談会を開催し要望に応えられるよう活動をしたい。

また、2つ目の目標に関しては、岐阜県看護協会の研究助成の採択を受け、研究課題「岐阜県における看護研究に対する看護職のニーズ；地域・所属機関・役職別の比較」について、研究を開始した。3月末までに集積し結果までまとめる予定である。

看護研究研修会

- 1) 令和2年10月6日（火）17:30～19:00 岐阜大学医学部附属病院看護部
テーマ：看護研究のテーマをみつける 文献を入手する
講師：小木曾加奈子
担当：社本生衣、西田友子

看護研究

- 1) 研究テーマ：岐阜県における看護研究に対する看護職のニーズ
—地域・所属組織・役職別の比較—
- 2) 研究実施体制
研究責任者：小林和成
分担研究者：竹下美恵子、小木曾加奈子、西田友子、社本生衣、牧 茂義
- 3) 研究目的
看護研究の支援策を考案するために、岐阜県内にある医療機関等の看護職の看護研究へのニーズの実態を明らかにすること
- 4) 研究デザイン
無記名自記式質問紙調査（量的記述的研究）

5. 地域住民健康教育プログラム

令和2年度 地域住民健康教育プログラム

1. 目的

地域住民と看護学科教員・学生が交流の機会をとおり、地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得るとともに、学生が社会における看護職の役割を認識し、地域住民に貢献する看護職のあり方を追求する。

看護学科が有する人材を始めとし、施設や教材、および教育研究活動の成果等を県内外の個人、集団、組織およびコミュニティ等に活用してもらい、健康の維持・増進、生活の拡充等に寄与する。

2. 目標

- 1) 子どもから高齢者まで幅広い年代層の地域住民の健康ニーズを明らかにし、地域住民の健康課題および健康課題の解決にむけた支援を行う。
- 2) 地域住民の看護学科、看護に対するニーズを明らかにし、地域住民の健康維持・増進に寄与する活動を行う。
- 3) 地域住民と看護学科教員・学生が交流する機会を持ち、看護学科及び看護に対する理解を図り、看護教育への協力を得る。

3. 活動内容

- 1) 地域住民の活動の場に出向き、看護学科の持つ知識や情報などの資源を地域住民に提供する。
- 2) 学生が地域住民の活動に参画し、地域を学び、住民に対し看護の魅力や看護学生としての学びを提供する。
- 3) 地域住民との交流を通し、地域住民の健康や看護・看護学科に対するニーズを明らかにする。

4. 活動実績

Covid-19 の感染拡大に伴い、当初予定していた地域での活動が実施できない状況であった。従って、今年度は情報収集を中心として、地域住民及び地域医療を担う岐阜県内の専門家らと意見交換を行い、次年度の地域活動の示唆を得た。また、看護学科における社会貢献活動をより発展的に行っていくために、本プログラムの活動の一端を担う岐阜大学の学生に対し、社会貢献活動に対する意識調査を計画して基礎資料を得ることとした。現在、調査の準備段階にある。

1) 黒野自治会連合会との意見交換

日時：令和2年8月12日（水）16：00-17：00

場所：黒野公民館（岐阜市）

概要：コロナ禍における黒野地区住民の健康状態について意見交換を行った。外出頻度や人々との接点が減っており、人との交流機会の減少が多くの高齢者の心身に影響を及ぼしている可能性があるなどの意見があった。今後、コロナ禍の影響に伴う地域住民の心身の不調など、65歳以上の高齢者を対象に現状把握していく旨を確認した。

※詳細は地域住民健康教育プログラム 地域住民との打ち合わせ会議議事録（令和2年8月12日）参照

2) 県北西部地域医療ネット 代表理事との意見交換

日時：令和2年9月14日（月）14：00-15：00

場所：県北西部地域医療センター国保白鳥病院

概要：岐阜県北西部の地域医療・へき地医療体制の構築に尽力されている、後藤忠雄先生と意見交換を行った。9月時点において、郡上地区ではCovid-19に罹患した感染者の報告はないものの、地域に住む高齢者は感染への心配から過度に外出を自粛している現状がある。これらの影響は、日頃からの身体活動や人との交流を制限している可能性があり、高齢者のフレイルを進行させてしまう可能性がある。高齢者の活動レベルの低下が健康に悪影響を及ぼさないように、正しい知識の普及が今後の課題である。また、国や市町村から緊急事態宣言などの国民の活動指針を発令する場合、自粛中のフィジカルアクティビティや他者との交流方法などの代替手段をパッケージ化して考えておく必要がある。特に、普段から交流の場に顔を出さない高齢者をさらに孤立化さないように日常生活の中でアクセスしやすい双方向型のインフラ整備や事業を構築していく必要があることを確認した。

3) 大学生の社会貢献活動等に関する調査

研究テーマ：「大学生の社会貢献活動等に関する調査」

概要：大学生の社会貢献活動等への意欲や地域活動への興味などを把握し、その実情を明らかにすることを目的に本研究を推進している。今年度は、本研究計画書を所属機関の倫理審査委員会に提出し、審査・承認を得た。現在、調査を推進するために必要な外部資金の獲得を進めている段階にある。

4) 論文の投稿

- ・ 看護学生による市民運動会における社会貢献活動（2019年度実施）について、「地域志向学研究」（岐阜大学地域協学センター編）に投稿した。
- ・ 地域住民の防災意識向上に向けた取り組みの一環として実施したアンケート調査（2019年度）について「東海公衆衛生雑誌」（東海公衆衛生学会編）へ投稿した。

4. 次年度の課題

- 1) 「大学生の社会貢献活動等に関する調査」の実施
- 2) コロナ禍における地域高齢者の健康維持活動に関する現状調査の実施
- 3) ポストコロナ時代における地域住民との交流方法や地域行事を継続する方法の検討・提案
- 4) 活動・調査実施のための外部資金の獲得

地域住民健康教育プログラム

地域住民との打ち合わせ会議議事録

日 時：令和2年8月12日（水）16：00～

場 所：黒野公民館（岐阜市）

出席者：連合会長・副会長（2名）・事務局長・事務局次長（黒野自治会連合会）
瀬瀬・小林・田中（岐阜大学）

議 事：

コロナ禍における黒野地域住民の健康について

住民同士のつながりが強い黒野地域において、コロナ禍で外出頻度や人々との接点が減っていることが予想される。そのため、地域住民における心身の不調など、黒野地域の現状を把握し、大学として出来ることを地域と共に考えて行きたいと伝える。

- ・ 上記の趣旨説明後、出席者間で意見交換を行った。以下概要。
- ・ 黒野自治会においては、3～5月の定例会は中止となり、7・8月から会議を再開している状況である。また、公民館でのサークル活動はほとんど中止となっており、公園に花を植える屋外での活動も中止となった。一方で、自治会にある大規模な3つのグランドゴルフサークルなどは7月から徐々に活動を再開している。
- ・ 久しぶりに再会した人たちの話を聞くと、「寂しかった」という声をよく耳にした。
- ・ 自治会のメンバー間でも、関係性が少しギクシャクすることもあったが、コロナの影響が色々な所で出ている印象を受ける。
- ・ これまでの状況を鑑み、黒野地域では外出頻度や人と会う機会が減り、何かしらの影響を受けている人がいることが予想される。また、住民同士お互いの状況は気にはなっているが、現状を明らかにすることが出来ないため、大学が調査に入ることは歓迎である。
- ・ 調査対象者については、外出頻度などが減り、心身に影響を受ける可能性が高い、65歳以上の人を対象に実施していくことを計画している。
- ・ 黒野自治会では、32町あり、それぞれに自治会長が選出されているが、各自治会長のもとに、何名かの班長が置かれ、回覧などの配布物は、この班長が担っている。
- ・ 調査研究のアンケート用紙については、各班長に依頼し、配布することは可能であるとのこと。なお、行政からの配布物などは、毎月1日と15日となっている。
- ・ アンケート用紙の回収作業については、班長が各戸を回ると恣意的な力が働く可能性があるため、郵便と戸別回収の2種類を検討する。
- ・ 今後の予定として、9/10（木）19:30から各自治会長が参加する黒野自治会定例会があるため、その場で、研究の趣旨説明や協力依頼を行っていく。
- ・ 今回の趣旨とは異なるが、黒野自治会より、地域貢献として学生に消防団・水防団への入団をお願い出来ないか相談があった。学生の場合、大学の在籍期間での参加でいいことや、活動手当がもらえるなどのメリットが紹介された。

・ 5年間の活動評価

1. 高大連携プログラム

社会貢献部会の各プログラムにおける活動の評価（高大連携）

【社会・環境的な変化（社会的インパクト）】

看護職として岐阜県内でリーダーシップを発揮し、看護の質の向上に貢献できる人材の育成のため、大学入学前から看護の基盤となる素養を育てる。

【2次アウトカム】

- ①探究活動：ポスター作製・発表にあたり、データ解釈、グラフ作成能力向上
経験した学生が自発的に他学生に参加者を募り探究活動を実施（参加者5名程度）
 - ②出前授業：高校教諭の看護師資格取得や看護業務に対する知識の増加および認識の変容
 - ③基礎看護学演習：本学学生へ看護学生としての自覚の促し、高校生との交流
- ※本学への入学者はなくとも、広く看護職への動機付けと看護系への進学に繋がった可能性

【1次アウトカム】

- ①探究活動：高校生の疑問解消、探究する姿勢を習得し、視野看護の拡大、思考の深まり、ポスター発表
- ②出前授業：高校生の進路イメージ、職のイメージ化
- ③基礎看護学演習：参加した高校生は看護学や看護学生をイメージ化

【活動の結果がもたらす変化（アウトカム）】

【活動の結果（アウトプット）】

- ①探究活動参加学生数・・・〈A校 H28～R2：11～18名， D校 R1～R2：120～122名〉
- ②出前授業参加者数・・・〈A校（学生）H28～R2：24～37名，（教員）H28～H30：2～58名〉
〈B校（学生）H29～R2：25～37名〉〈C校（学生）R1～R2：23～35名〉
- ③基礎看護学演習参加学生数・・・〈A校 R1～R2：2～9名〉

【活動（アクティビティ）】

- ①探究活動（H28～R2：各年1～4回、2校）
- ②出前授業（H28～R2：2～3回、3校）
- ③基礎看護学演習（R1～R2：1～2回）

【投入（インプット）】

・プログラムメンバー（H28～R2：4名）・経費（H28～R2：0～5万円）

【プロセス評価】

- ①探究活動：実施毎に目標達成状況の分析
- ②出前授業：実施毎に学生による評価とニーズの分析
- ③基礎看護学演習：関係者との打ち合わせ、実施毎に学生による評価、ニーズの分析
年単位での活動内容と方法を検討・看護系大学志望者および受験者や入学者の把握

【セオリー評価】

高校生の参加者の増加を図る・高校生と高校教員のニーズ把握・高校教員の看護に対する理解の促進・プログラムメンバーの労力および経費の縮減

社会貢献部会における高大連携活動の評価

【社会・環境的な変化（社会的インパクト）】

高大連携活動は、看護職として岐阜県内でリーダーシップを発揮し、看護の質の向上に貢献できる人材の育成のため、大学入学前から看護の基盤となる素養の育成を目的とする。本活動は、岐山(A)、岐阜北(B)、加納(C)、大垣南(D)の4校と連携し、主な活動内容は ①探究活動 ②出前授業 ③基礎看護学演習である。

【2次アウトカム】

- ①探究活動…探究活動後 A 校学生が、自発的に参加者（高校生）を募り 5 名程度の有志で探究活動を実施し、自発的な発展的学習になった。探究活動を通し看護系の進路が明確な目標となり実際の進学に繋がった例もあった（A 校教諭より情報提供）。データの解釈（調査対象と特性）、グラフの作成技術に向上がみられる。
- ②出前授業…4 校に H28～R2：2～3 回（教員研修を含む）実施、継続して依頼がある。連携校の教諭からは、看護師資格取得や看護業務に対する知識の増加、認識の変容などの感想を得た。
- ③基礎看護学演習…本学学生にも、看護学生としての自覚の再認識、高校生との交流等の良い影響があった。

【1次アウトカム】

- ①探究活動…高校生は各テーマについて探究し結果考察にまとめ発表した（参加者は 10 名以上を維持）。
- ③基礎看護学演習…高校生は、看護の内容や看護を学習することへのイメージ化ができた。

【活動（アクティビティ）】および【活動の結果（アウトプット）】

		探 究 活 動					出 前 授 業					基礎授業	
		H28	H29	H30	R1	R2	H28	H29	H30	R1	R2	R1	R2
高 校 人)	A岐山	18	17	13	18	11	30：学生／58：教員 (学生教員別講義)	35：学生/58：教員 (学生教員別講義)	37(学) 2(教員) (学生教員同講義)	38	24	9	2
	B岐阜北						29		25				
	C加納						35		23				
	D大垣南												
	120												122
(回)	A岐山	4(各別日)	1	1	1	1	2(岐山2)	3 (岐山2 岐阜北1)	2 (岐山1 岐阜北1)	2	3	2	1
	D大垣南												
	4												2

【投入（インプット）】

・高大連携プログラムメンバーは H28～R2 にかけて 4 名が継続的に担当。出前授業では依頼内容に応じ専門科目の本学教員が担当し、ニーズを汲んだ講義を実施している。また探究活動では高大連携プログラム以外の本学教員から協力を得ている。①②では各分野保有の教材（模型等）を活用し少額経費で活動可能である。

- ①探究活動…各支援を実施した本学教員数、H28～R2：5～6 人（毎年）
- ③基礎看護学演習…A 校学生参加時に支援した本学教員：R1：5 名、R2：4 名

【プロセス評価】

・年単位での活動内容と方法を検討し看護系大学志望者および受験者や入学者を把握している。令和 2 年度は全活動で感染防止対策を講じ高校とも調整した。

- ①探究活動…実施毎に学生からの評価および本学教員の支援状況を確認し、目標達成状況の分析を行っている。
- ②出前授業③基礎看護学授業演習…実施毎に学生からの評価およびニーズ分析を行っている。

【セオリー評価】

高校生の参加者の増加を図る、高校生と高校教員のニーズ把握、高校教員の看護に対する理解の促進、プログラムメンバーの効率的活動・経費縮減も併せ評価し、次年度の活動に活かしている。探究活動、出前授業で支援する A 校の進学状況等につき情報を得て、評価の参考資料とする。

2. 卒業生支援プログラム

社会貢献部会の卒業生支援プログラムにおける活動の評価

【社会・環境的な変化（社会的インパクト）】

- ・卒業生と在校生にキャリアアップを考える機会や自分の歩みを振り返る機会は提供できた・人材育成に直接結びつく活動や卒業生による主体的かつ継続的な実施を目指し、今後は専門職を磨くプログラムと統合し活動していく



【2次アウトカム】

- ・参加者同士の新たな個々のつながりができた・専門職(保健師)同士の学習会開催につながった・在校生から卒業生に話を聞きたいという意欲につながった・継続して実施をすることができた・現在開催している会を卒業生が主体的に開催するまでには至らなかった



【1次アウトカム】

- ・参加者からは「役に立った」「自分の看護を振り返る機会となった」「今後の参考になった」等、参加してよかったという結果を得た・卒業生が在校生のキャリア支援に携わることができた・卒業生の動向・要望調査結果として論文3編が掲載された・相談窓口の開設により、卒業生のキャリア支援をすることができた

【活動の結果がもたらす変化（アウトカム）】



【活動の結果（アウトプット）】参加人数

- ・卒業生交流会(H28年度 卒業生 34人)・在校生卒業生交流会(H29年度卒業生 9人 在校生 33人・H30年度卒業生 9人 在校生 39人)・在校生保健師卒業生交流会(H29年度卒業生 14人 在校生 47人・H30年度卒業生 13人 在校生 34人)・保健師交流会(卒業生 11人)・Home Coming Day(H29年度卒業生 19人・H30年度卒業生 24人・R元年度卒業生 4人)・岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および要望に関する調査(H30年度:1042人に郵送し 310人より回答あり)・卒業生相談窓口(R2年度相談件数 2件)



【活動（アクティビティ）】

- ・卒業生交流会(H28年度計1回)・在校生卒業生交流会(H29・H30年度1回ずつ計2回、それぞれSA4人が企画運営に参加)・在校生保健師卒業生交流会(H29・H30年度1回ずつ計2回)・保健師交流会(H30年度1回)・Home Coming Day(H29～R元年度1回ずつ計3回、同窓会会報に案内掲載または会報発送時チラシ同封)・岐阜大学医学部看護学科卒業生の動向および要望に関する調査(H30年度)・卒業生相談窓口を開設(R2年度)・第1回岐阜大学医学部看護学科同窓会学年委員会に参加



【投入（インプット）】

- ・プログラムメンバー：H28年度～30年度 5人、令和元年度 4人、令和2年度 2人、平均 4.2人・経費：看護学生等県内定着促進事業補助金H29年度 260,284円・H30年度 301,866円、学科長経費：令和年度 24,049円

【プロセス評価】

研修会毎の参加者ニーズの分析・卒業生の動向及び要望に関する調査の実施と評価・ニーズ調査に基づいた活動の実施・在校生が企画運営に参加・同窓会との協働が困難・プログラムメンバーの減少

【セオリー評価】

- ・卒業生のニーズの明確化・同窓会とコラボレーション・卒業生の仲間づくり・会の開催と運営主体を卒業生に移行・リーダーシップを取れる人材の育成

セオリー評価

卒業生の岐阜大学に対するニーズを明らかにし、卒業生が看護の質の向上や職場でのリーダーシップを発揮できるような自己研鑽できる取り組みを支援するために活動してきた。また同窓会と共同し、会の開催・運営は卒業生主体でできるようになることを目指した。
⇒セオリーに合った継続的な活動ができ、5年間全体の評価としては概ね良好であったと考える。

プロセス評価

会の開催毎のアンケート実施、さらに全卒業生を対象に動向と岐阜大学に対する要望を調査した。それらの結果を基に卒業生への広報方法、講演会の内容、参加しやすい日程などを検討し改善を重ね活動してきた。また在校生を対象とした在校生卒業生交流会も企画し、在校生に対するキャリア支援を行うとともに、卒業後も大学とつながり将来的には自分達が後輩育成のために参加・運営に関わることをイメージしてもらうようにも努めた。さらに会の運営を在校生に行ってもらうことで、主体的に取り組む人材育成にも配慮した。会の開催・運営が卒業生主体でできるように同窓会との共同開催にむけ、第1回岐阜大学医学部看護学科同窓会学年委員会にも参加した。

⇒目標としていた卒業生主体の開催までには至らなかったが、卒業生・在校生の「今後の参考になった」等の反応からも5年間全体の評価は概ね良好であったと考える。

活動の結果（アウトプット）評価

継続的な開催ができ、卒業生が大学に来る機会となった。卒業生を対象とした動向と岐阜大学に対する要望調査の結果をまとめ、「岐阜大学 教育推進・学生支援機構 年報」に論文1編、「第8回岐阜看護学会論文集」に論文2編が掲載されており、結果を学科内に留めず公表することもできた。また卒業生のキャリア支援の一環として卒業生相談窓口を開設したところ、2件の問い合わせがあり対応した。相談窓口は令和2年度に開設したばかりであり、まだ十分に周知がされていない中でも問い合わせがあったことから、卒業生への支援として重要であり、今後も継続的に利用されると考える。

⇒参加人数の増加には至らなかったが、会には一定の参加者があった。また動向と要望調査結果の論文投稿や相談窓口の開設もでき、5年間全体の評価は概ね良好であったと考える。

活動の成果（アウトカム）評価

参加者からは「役に立った」「自分の看護を振り返る機会となった」「今後の参考になった」等、参加してよかったという結果を得ることができ、さらに参加者同士の新たなつながりや学習会の開催につながる機会にもなった。また、在校生卒業生交流会で卒業生が在校生のキャリア支援に携わることは、後輩育成に貢献したいという卒業生のニーズや看護を振り返る機会にもなり有効なものであった。

⇒卒業生・在校生の反応からも5年間全体の評価は概ね良好であったと考える。

社会・環境的な変化（社会的インパクト）

当該プログラムの活動は、参加した卒業生・在校生にキャリアアップを考える機会や自分の歩みを振り返る機会を提供できた。今後も卒業生の人材育成と卒業生の主体的かつ継続的な会の実施を目指し、専門職を磨くプログラムと統合し活動を継続していくことで、社会的インパクトへの変化を与えていく。

3. 専門職を磨く教育プログラム

【専門職を磨く教育プログラム】における活動の評価

【社会・環境的な変化（社会的インパクト）】

岐阜大学と岐阜大学附属病院が連携し、時代と地域のニーズに応じた看護が提供できる看護師育成



【2次アウトカム】

・研究や研修会の開催により、他施設の看護師にも本プログラムの取り組みを認知する機会になった。



【1次アウトカム】

・Gifu クリティカルケア研究会の認知度の継続、参加者の90%以上が満足との結果であった。
・LGBT・性別違和（性同一障害）医療・看護」研修会の需要拡大・研修会を継続することで、研修会が認知され参加者を一定数確保できるようになった。
・看護実践の現状の分析により、臨床看護師の看護学科に対するニーズを検討することができた。
・「看護職の管理者および教育担当者、中堅看護師のとらえた看護実践能力向上の課題と看護系大学に求める支援」学会報告（R1：3件、R2：3件）

【活動の結果がもたらす変化（アウトカム）】

【活動の結果（アウトプット）】

- ・Gifu クリティカルケア研究会（H28：247名、H29：200名、H30：188名、R1：117名 計752名）
- ・岐阜看護教育交流会（H28：54名、H29：60名 合計114名）
- ・認知症高齢者を抱える家族と看護師の交流会（H28：54名、H30：46名 合計100名）
- ・LGBT・性別違和（性同一障害）医療・看護」研修会（H30：50名、R1：55名）
- ・臨地実習指導者と臨地実習指導担当教員の交流会（H30：17名）



【活動（アクティビティ）】

- ・Gifu クリティカルケア研究会（H28：4回、H29：4回、H30：4回、R1：3回）
- ・岐阜看護教育交流会（H28：2回、H29：2回）
- ・認知症高齢者を抱える家族と看護師の交流会（H28：1回、H30：1回）
- ・LGBT・性別違和（性同一障害）医療・看護」研修会（H30：2回、R1：1回、R2：1回）
- ・臨地実習指導者と臨地実習指導担当教員の交流会（H30：1回）
- ・「看護職の管理者および教育担当者、中堅看護師のとらえた看護実践能力向上の課題と看護系大学に求める支援」インタビュー調査（H30：15名）



【投入（インプット）】

- ・プログラムメンバー（H28：6名、H29：5名、H30：6名、R1：6名）

【プロセス評価】

- ・研究会、研修会、交流会毎の参加者ニーズの分析・年単位でのプログラム内容の改編
- ・中堅及び管理職の看護師が捉える自部署の看護実践の現状の調査と分析
- ・臨床看護師を対象とした研修会の継続的な実施・臨床看護師との交流会の開催
- ・研修会継続のための講師の確保および他施設への協力依頼

【セオリー評価】

- ・中堅及び管理職の看護師が捉える自部署の看護実践の現状・ニーズの把握・本学科へのニーズの把握・臨床看護師の要望をもとにした研修会の開催／継続的なかわり・臨床で働く看護師との交流の機会の増加

1. セオリー評価

平成 28 年度より、岐阜大学と岐阜大学附属病院看護部が連携し、時代と地域のニーズに応じた看護が提供できる看護師の育成を目的に掲げ、①中堅及び管理職の看護師が捉える自部署の看護実践能力の現状・ニーズの把握、②本学科へのニーズの把握、③臨床看護師の要望をもとにした研修会の開催・継続的なかわり、④臨床で働く看護師との交流の機会の増加を目標に活動を継続した。

→臨床看護師の看護実践能力の現状を把握し、それをもとに今後の活動方針を検討することができたため、概ね良好である。しかし、病院看護部と連携した支援体制の構築に向けた活動には至っていない為、次年度検討していく必要がある。

2. プロセス評価

臨床看護師の看護実践能力の把握のために、複数施設の看護師へ協力を依頼し質的調査を行い、データ分析することにより看護師の看護実践能力の向上におけるニーズを把握することに努めた。研修会に関しては、講師を確保することや他施設へ協力を依頼することなど様々な工夫を行いながら、研修会を継続してきた。令和元年より開始した研修会は、令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止措置のため実施が困難であった。

→臨床看護師の看護実践能力の現状やニーズを把握においては順調に取り組めていたと評価する。しかし、支援体制の構築に向けた取り組みには至っていない為、段階を踏み取り組む必要がある。加えて、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大防止措置の状況下でもオンライン等を活用し研修会が実施できるよう検討していく必要がある。

3. 活動の結果（アウトプット）評価

研修会を毎年開催することができた。また、令和元年より開催した実習指導者との交流会では、複数の施設から参加者を募ることができた。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響もあり、研修会や交流会を開催することができなかったが、臨床看護師の看護実践能力に関する分析を進めることができ、看護実践能力の現状を明らかにすることができた。

→臨床看護師の看護実践能力を高めるための支援体制を構築するうえでは、現状を把握することは重要であり土台となること、また研修会においては継続して開催していることから、本活動は概ね良好と評価できる。

4. 活動の成果（アウトカム）評価

臨床看護師を対象とした研修会を毎年開催することで、参加者を一定数確保することができた。看護実践能力の現状の分析により、臨床看護師の看護学科に対するニーズを検討することができた。また、研究や研修会の開催により、他施設の看護師にも本プログラムの取り組みを認知する機会になったのではないかと見える。

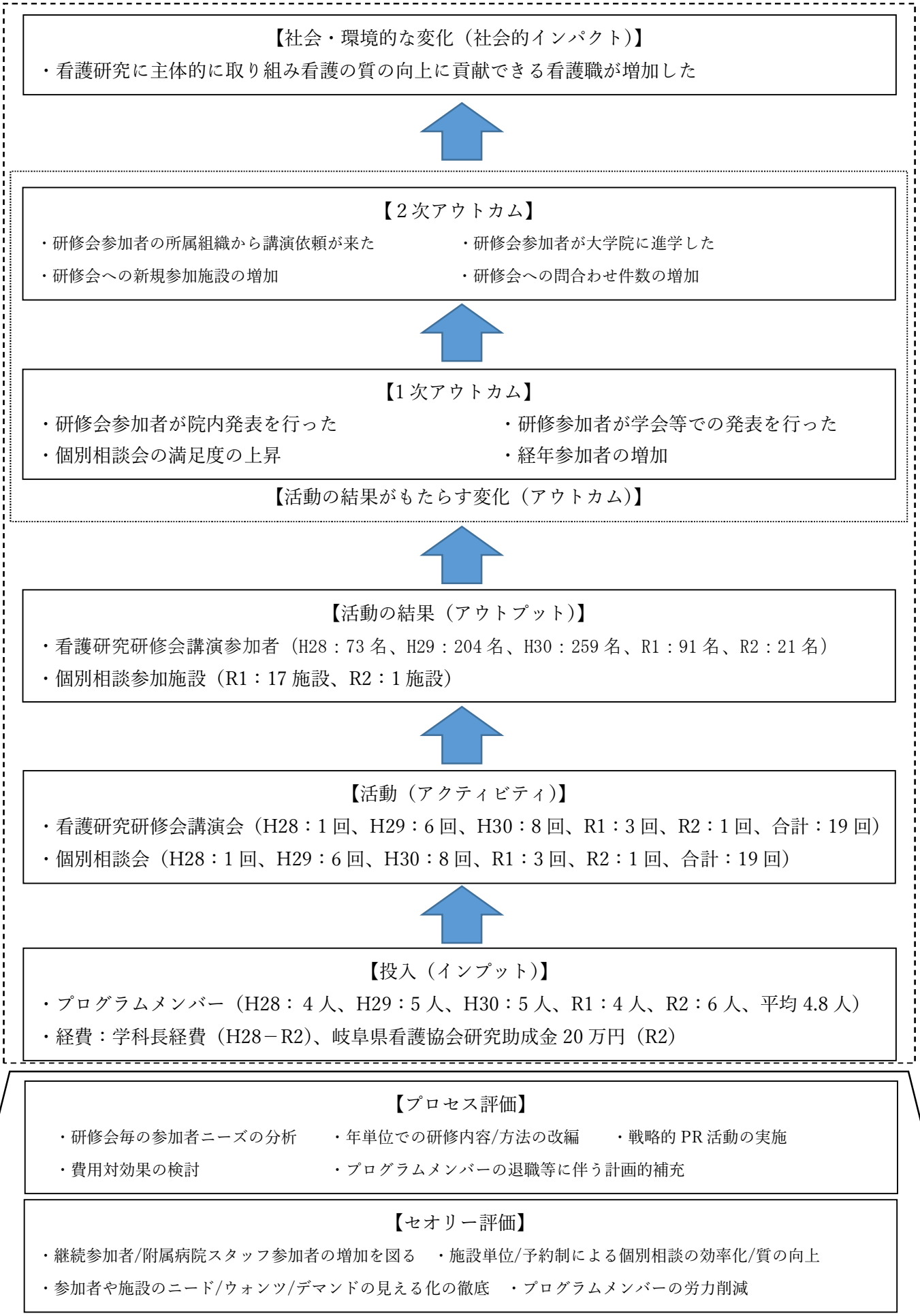
→今後はどのように支援体制を構築するのが課題である。

5. 社会・環境的な変化（社会的インパクト）評価

以上のことから、当該プログラムは毎年継続して研修会を開催したことにより、研修会の認知がされ参加者の確保につながった。また、研究成果を学会にて報告することにより、多くの看護専門職の方々に看護師が捉える看護実践能力の現状を知る機会を提供できた。これらの活動は、看護学科の地域貢献活動として普及し、少なからず社会的なインパクトを与えたものと推測される。

4. 看護研究支援プログラム

社会貢献部会の各プログラムにおける活動の評価



セオリー評価

平成 28 年度に、専門職を磨く教育プログラムの一環として、看護研究支援を行ってきた。その後、専門性の高さや看護職の皆様からのニーズに応えるべく、看護研究支援プログラムとして独立した。

円滑かつ効率的な活動を展開するため、前年度の参加者特性やアンケート結果等の活動実績の分析を踏まえ、①継続参加者および岐阜大学医学部附属病院スタッフの参加者の増加、②施設単位および予約制による個別相談の効率化/質の向上、③参加者や施設のニード/ウォンツ/デマンドの見える化の徹底、④ プログラムメンバーの労力削減を戦略として活動してきた。

⇒各年度間および 5 年間の評価としては評価としては概ね良好であり、今後も当該戦略を継続して行っていくこととする。

プロセス評価

プログラムメンバーの退職等に伴う計画的補充を行いながら、活動計画に沿った活動展開、学科長経費である社会貢献部会の経費獲得、適格な執行に努めてきた。研修会毎の参加者ニーズの分析、年単位での研修内容/方法の改編を丁寧に行い、戦略的 PR 活動の実施にも力点を置いてきた。岐阜県や岐阜県看護協会からの補助金や助成金も利活用し、研修内容や方法の拡充拡大をしたり、広く看護職のニーズを収集したりすることも行ってきた。

⇒各年度間および 5 年間の評価としては概ね良好であり、今後も当該方策を継続して行っていくこととする。

ただ、新型コロナウイルス感染症下において参加-主催側共に有益と捉えることのできる方策のあり方を、労力・費用対効果、及び安全面の観点より検討する必要がある。

活動の結果（アウトプット）評価

上述したプログラムの戦略、方策により平成 30 年頃までは研修会参加者、参加施設ともに段階的に数を増やすことができた。令和元年度は、マンパワー不足や過度な労力負担の軽減を図りながらも、安定的な研修会内容を担保すべく研修会と個別相談会を隔回開催にした結果、研修会参加者、参加施設とも減少した。令和 2 年度は、新型コロナウイルス感染症蔓延により、集団を対象とした研修会や個別相談会の実施は出来なかったため研修会参加者、参加施設ともに激減した。その中でも、今までに研修会に参加した者や岐阜大学医学部附属病院単独での研修会開催等を開催し、活動実績を残した。

⇒戦略や方策を受けての結果であり、各年度間の評価を行うことに限界はあるものの、5 年間全体の評価としては概ね良好と考える。

活動の成果（アウトカム）評価

研修会参加者が院内発表や学協会での発表を行ったり、個別相談会の満足度が 8 割を超える値で推移している、経年参加者が〇人、研修会参加者の所属組織から講演依頼が来た、研修会参加者が大学院進学した等の成果が見られた。さらに、研修会への問い合わせ件数、研修会への新規参加施設の増加等も波及効果も認められた。

⇒戦略や方策を受けての結果であり、各年度間の評価を行うことに限界はあるものの、5 年間全体の評価としては概ね良好と考える。

今後、研修会や個別相談会の参加者に成果の詳細を聞き取ることに加え、岐阜県内の看護職に行った調査の結果を分析し、課題と成果を見える化する。

社会・環境的な変化（社会的インパクト）

以上のことから、当該プログラムの活動は研修会や個別相談会に参加した者のみならず、所属組織や所属外組織にも多面的、かつ時差的な正の変化をもたらしたと考えることができ、少なからず社会的なインパクトを与えたものと推測される。

5. 地域住民健康教育プログラム

【地域住民健康教育プログラム】における活動の評価

【社会・環境的な変化（社会的インパクト）】

学生および教員が地域活動を行う土台が構築され、地域住民と協働してプログラム（健康支援活動や地域行事等）を推進する活動の機会が増加した。また、地域住民のニーズに合わせた活動を通し、住民の健康課題が明らかとなった。

【2次アウトカム】

- ・看護学科の学生・教員に対して他の地域行事（防災訓練）の参加要請・活動依頼があった。（1件）
- ・プログラム参加学生に大学院へ進学を希望する学生、進学が決まった学生が増えた。（2件）
- ・学生はネットワークコンソーシアム「学生による地域課題解決提案事業成果報告会」の参加・発表を通して、他大学の学生との交流の機会が得られた。
- ・他学部から本プログラムの活動内容に関する問い合わせがあった。（1件）
- ・本プログラムの活動内容の一部が中日新聞「わっちとおまはん」に掲載された。（1件）
- ・新カリキュラムにおける本学科の実習を、活動対象の地域に受け入れてもらえることとなった。
- ・看護学科が実施したプログラム（健康支援体操）が、地域住民の健康維持活動に取り入れられるようになった。

【1次アウトカム】

- ・看護学科が地域住民に認知され、地域活動の中に積極的に学生を受け入れてもらえるようになった。
- ・約1000名の運動会参加者の前で学生が考案した健康体操を披露することができた。
- ・地域活動に参加した学生の活動前後のアンケート結果では、地域環境の理解や住民との交流に対する意識が高まっていた。
- ・防災意識に関するアンケート調査から、防災意識・行動に関する地域住民の課題が明らかとなった。
- ・学生による活動報告：2件（ネットワークコンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業成果報告会」）
- ・当該プログラムに関する研究報告：4件（岐阜大学教育推進・学生支援機構年報：2件、地域志向学研究：2件）
- ・当該プログラムに関する論文：1件（東海公衆衛生学会）

【活動の結果がもたらす変化（アウトカム）】

【活動の結果（アウトプット）】

- ・地域活動調査アンケート回答者数（H29年：199名、H30年：119名、R1年：217名）
※地域住民は学生の積極的な地域活動に期待し、健康支援や防災活動などへのニーズが高いことが明らかとなった。
- ・健康支援活動ブースの参加者人数（H30年：355名、R1年：128名）
- ・防災活動に関連した看護学科主催運動会競技参加者人数（R1年：150名）
- ・地域活動への参加学生人数（H29年：8名、H30年：9名、R1年：21名）

【活動（アクティビティ）】

- ・地域住民に対するニーズ調査の実施（H29年：JR岐阜駅前、H30年：本荘小学校、R1年：黒野小学校、計3回）
- ・地域の年間行事への参画と健康支援活動の実施（H30年：本荘地区運動会、R1年：黒野地区運動会、計2件）
- ・自治会との打ち合わせ会議件数（H30年～R2年計9回）

【投入（インプット）】

- ・プログラムメンバーの人数（H29年：6名、H30年：5名、R1年：6名、R2年：5名）
- ・岐阜県看護学生等県内定着促進事業補助金（H28-H30年）
- ・ネットワーク大学コンソーシアム岐阜（R1年：6万円×2件）

【プロセス評価】

- ・自治会活動の把握と活動計画の修正（打ち合わせ会議の定期的開催）
- ・外部資金の獲得
- ・プログラムメンバーの計画的補充と活動学生のリクルート
- ・地域住民に対するニーズ調査の継続的实施および分析
- ・学生のニーズの把握および学習効果の分析
- ・地域住民の看護学科に対する認知度の把握とPR活動の実施

【セオリー評価】

- ①地域住民の健康ニーズの把握と健康課題の解決に向けた支援
- ②地域住民の看護学科、看護に対するニーズの把握
- ③地域住民との交流および連携の強化と地域の活性化に向けた企画提案
- ④学生の社会貢献活動への意識の強化（教育的活動）と活動参画体制の構築
- ⑤専門家との討議

地域住民健康教育プログラム

セオリー評価

本プログラムは、1.地域住民の看護学科及び看護に対する理解を得ること 2.看護学科の学生・教員が地域住民に貢献する看護職の在り方を追及すること 3.地域住民の健康の維持・増進を主たる目的として活動してきた。目的の達成度を評価するために、地域住民のアンケート調査の結果、地域住民との交流頻度や支援活動などの実績、プログラムへの学生参加人数や学生の教育効果の分析結果などを成果指標として設定した。プログラムの具体的な戦略として、①地域住民の健康ニーズの把握と健康課題の解決に向けた支援 ②地域住民の看護学科、看護に対するニーズの把握 ③地域住民との交流および連携の強化と地域の活性化に向けた企画提案 ④学生の社会貢献活動への意識の強化（教育的活動）と活動参画体制の構築 ⑤専門家との討議などを実施し、目的達成のために効果的な活動を展開した。

→5年間の目的達成のための戦略としては、妥当なものであったと考え、当該方策を継続していくが、成果指標をより具体的なものに検討し、アウトカムを共有していく必要がある。

プロセス評価

地域における自治会の活動計画を把握した上で年間計画を立案し、計画に沿った活動を展開した。また必要経費は外部資金を獲得し、活動を展開することができた。地域住民に対するニーズ調査の結果を分析し、地域住民のニーズとして優先順位が高いものを自治会役員・学生と共に考えてきた。また、地域住民に対するニーズ調査を経年的に続け、幅広い世代の健康課題や看護学科に期待する内容を明らかにし、活動計画・内容の修正を行ってきた。更に、地域住民に看護学科を認知してもらえるように看護学科のPR活動に力を入れた。プログラムメンバーの退職もあったが、活動時のマンパワーの確保を計画的に行うとともに、学生をリクルートして継続的に活動に参加できる体制を整えた。学生には、活動計画・実施・評価・活動報告のプロセスに参画させるとともに、活動を通して得られた学習効果の分析を行った。

→5年間の活動過程の評価は概ね良好であり、今後も継続していく。ただし、現在のコロナ禍において、地域行事等を中断せざる得ない状況にあり、地域住民との交流の在り方を再検討していく必要がある。

活動の結果（アウトプット）評価

経年的に実施してきた地域住民に対する調査結果より、健康支援や防災活動に関するニーズが高いことが明らかとなった。地域の運動会を始めとした自治会行事に看護学科の教員と学生が計画段階から参画し、地域住民のニーズに合わせたプログラムを提案・実施することができた。看護学科が主催した防災活動に関連した競技種目への参加者は150名（R1年）、健康支援活動ブースへの参加者は約120-350名（H30年：約350名、R1年：128名）、健康体操見学者は約1000名（R1年）と、多くの地域住民が看護学科の活動を認知し、自身の健康や防災活動について振り返るきっかけを提供することができた。また、プログラムに参加した学生の人数は経年的に増加傾向にある。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い活動が大きく制限されたが、地域住民との情報交換は継続しており、今後の活動方針を検討している段階にある。

→5年間の活動評価は概ね良好である。

活動の成果（アウトカム）評価

看護学科が地域住民に認知され、地域住民と交流するための土台を築くことができた。地域住民側から地域行事への参加依頼が増え、地域の中に学生を積極的に受け入れてもらえるようになった。更に、本プログラム

地域住民健康教育プログラム

の成果が一つの要因となり、活動対象の地域に今後の看護学科の実習を受け入れてもらえることとなった。地域住民に実施した防災意識に関するアンケート調査の結果では、災害時の服薬管理や高齢者支援方法に関する準備への意識が低いなど、防災意識・行動に関する地域住民の課題が明らかとなった。

学生への教育効果に関するアウトカムとして、地域活動に参加した学生の活動前後のアンケート調査結果では、地域環境の理解や住民との交流に対する意識が高まるという結果が得られた。更には、活動内容の成果発表を行った学生が2名、本プログラムを経験した学生の中から大学院進学を希望する学生が2名いるなど、本プログラムを通じた活動の経験が、少なからず学生個々の学習への姿勢・意欲に影響を与えたものと考えられる。また、プログラムの対象地域に看護学科の実習を受け入れてもらう等、地域と共に学生を育てるという基盤構築にも繋がった。

本プログラムの中で地域住民に披露した健康体操が、地域住民の健康維持活動に取り入れられた。また、運動会の学生の活動が新聞に掲載されたことや他学部からも本プログラムの活動内容に関して問い合わせがあるなどの波及効果も認められている。また、本プログラムに関連した活動報告や研究結果を継続的に公表できている。

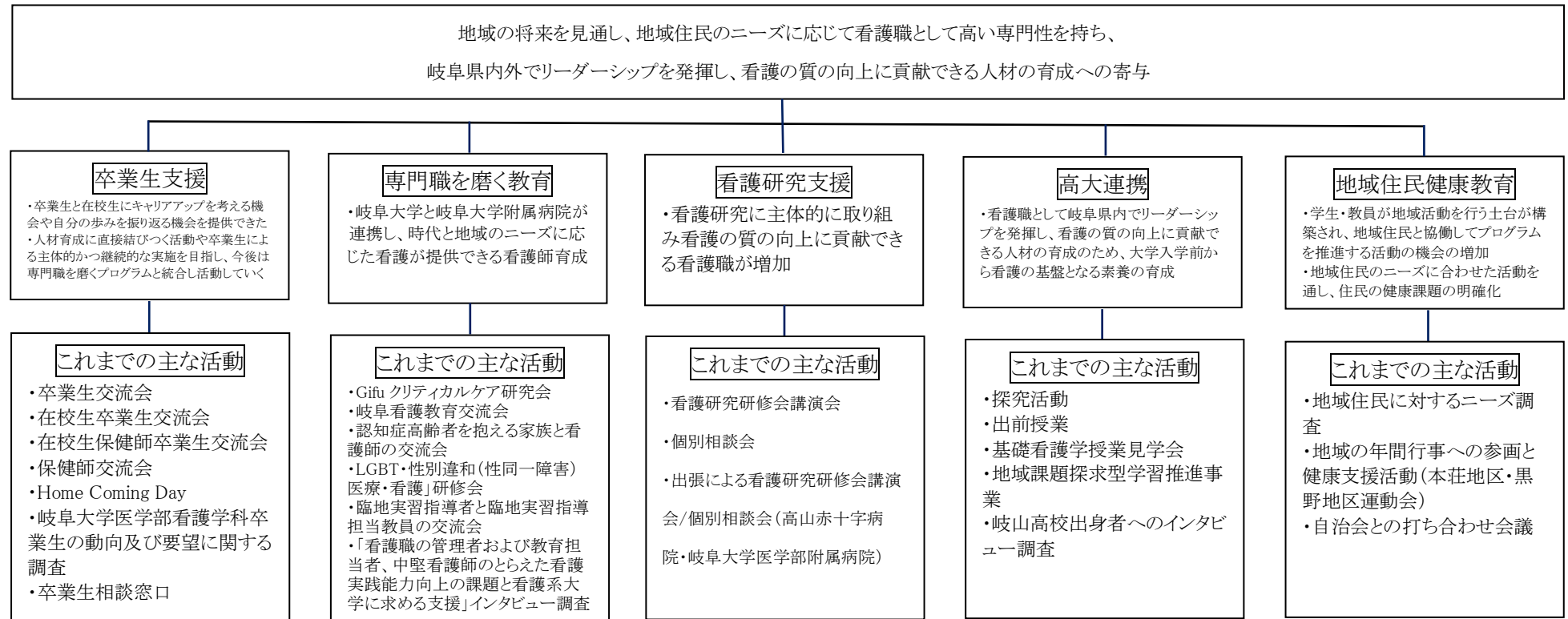
→5年間の評価として概ね良好と考えられる。

社会・環境的な変化（インパクト）

以上より、本プログラムの目標達成に向けた活動をきっかけに、地域住民と看護学科の交流が盛んとなり、協働して地域の健康課題等に取り組むための土台が形成された。また、活動を通して地域の健康課題が明らかとなり、地域貢献のための活動の方向性が明確となった。従って、地域住民・看護学科双方にとってポジティブな変化をもたらされたと考えられる。

6. 総合評価

社会貢献部会における5年間の活動の総合評価



【総合評価】

平成28年度の『社会貢献部会』の発足以来、「地域の将来を見通し、地域住民のニーズに応じて看護職として高い専門性を持ち、岐阜県内外でリーダーシップを発揮し、看護の質の向上に貢献できる人材の育成」を目的に、教員有志を中心とした「看護職輝き輝き(イキイキ)プロジェクト」を立ち上げ、5つのプログラムが5年間活動を継続してきたことは一定の評価に値する。

また、岐阜県の「看護学生等県内定着促進事業補助金」をはじめ、岐阜県看護協会の「看護研究助成金」、ネットワーク大学コンソーシアム岐阜の「学生による地域課題解決提案事業助成」等の外部資金を獲得しながら、入学前の高校生の看護職への関心を高め、入学後の学生の看護のキャリア形成を促し、就職後は看護職のキャリアアップと看護の質の向上(茎や葉の育成)を図り、看護学生や看護職が卒業後県内に定着することに寄与した。

5年間の活動の戦略的な部分から、社会的に及ぼした成果までを振り返り、次年度以降の活動に向けた課題を見出し、課題解決に向けた取り組みに努めなければならない。